

F D活動報告書

第 17 号 (2021 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2022 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 2021 年度授業評価アンケートフォーム.....	7
III 2021 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2021 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要.....	11
(2) 2021 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要.....	45
(3) 2021 年度授業評価アンケート総括.....	81
IV 講演会	85

はじめに

会計専門職大学院である関西大学大学院会計研究科は、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計人」の養成を第一の目的としており、その目的達成のためには、すべての教員が教育の質を高め、教育効果が向上するよう心掛ける必要があります。また同時に、教育体制、カリキュラム等を常に研究科として見直しを行い、改善を行ってきました。これらの活動のひとつとして、FD(Faculty Development)活動があり、教務・FD委員会を中心として推進してきております。これらの活動を、このFD活動報告書によって報告するものであり、FD活動報告書は、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしています。

FD報告書に示される授業評価アンケートの結果は、本研究科が設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきている今年度の結果であり、それに対する各担当教員の見解を示しています。教育効果を向上させるための工夫は、個々の教員がよりよいと思う方法を授業に施していくだけでは充分ではありません。提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育を提供できるようになると考えられます。そのため、学生による授業評価アンケートは、FD活動の大きな柱の一つとなっています。

本研究科の学生による授業評価アンケートの特徴として、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述すること、③教務・FD委員長による当該年度の教育内容全体に関する自己点検と総括がなされていること、ならびに④それらの結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられます。

今年度も特筆すべきことは、新型コロナウイルス感染及び蔓延防止対策が継続され、関西大学の方針により、春学期は前半には遠隔授業、後半はほぼ対面授業となり、秋学期は冒頭数回は遠隔授業、それ以降は対面授業とされたことです。そして、常に新型コロナウイルスの感染状況をモニターしながら、時として不安の中で授業が継続されました。従来、教室で学生と対面しながら授業を行い、それによる教育効果の向上を模索し努力し続けてきた教員にとって、前年度に遠隔授業を経験しているとはいえ、オンラインでの遠隔授業に充分習熟しているものではなく、一時的な遠隔授業のためにどのような調整を施せばよいのかの手探りで行うしかありませんでした。これらの工夫もまたFD活動として共有され、今後何らかの形で活用されることになると考えられます。

今後も、FD活動を継続して行い、その結果をFD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育内容と水準を向上させ得ると同時に、社会的な評価の向上を期待できると確信しています。

2022年3月

会計研究科長 富田 知嗣

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2021 年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15 回の講義が実施される。

授業評価アンケートは 2021 年度からオンライン方式（無記名）で実施しており、第 14 回目または第 15 回目の講義で QR コード付のアンケート依頼用紙を授業担当者が配付している。

オンライン方式で回答した内容はシステムで集計され、今後の授業内容および方法の改善のため、各授業担当者にフィードバックされる。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5) 対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
導入科目群	中級商業簿記	2	1	財務会計	春・秋	11・45
	中級工業簿記	2	1	管理会計	春・秋	12・46
基本科目群	上級簿記論<上級簿記>	2	1	財務会計	春前・秋	13・14・47
	上級財務会計論	2	1	財務会計	春後・秋	15・16・48
	上級原価計算論	2	1	管理会計	春前・秋	17・18
	上級管理会計論	2	1	管理会計	春後・秋	19・20・49
	監査制度論	2	1	監査	春後・秋	21・22・50
	監査基準論<監査基準>	2	1	監査	春・秋	23・24・51
	企業法	2	1	法律・税務	春前・秋	25・26・52
	会計専門職業倫理	2	2	監査	春・秋	53
	会計基準論	2	1	財務会計	春	27
	会計制度論	2	1	財務会計	春	28
発展科目群	財表作成簿記論<財表作成簿記>	2	1	財務会計	秋	54
	戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	
	企業分析論	2	1	管理会計	秋	
	監査実施論	2	1	監査	秋	
	監査報告論	2	1	監査	秋	55
	商取引法<商法>	2	1	法律・税務	春	29
	会社法	2	1	法律・税務	秋	56
	民法<民法(総則・物権)>	2	1	法律・税務	秋	
	法人税法	2	1	法律・税務	春	30
	上級税務会計論	2	1	法律・税務	春	31
	経営学理論	2	1	経営・経済	春	
	経営戦略・組織論<経営戦略論>	2	1	経営・経済	不開講	
	統計学	2	1	経営・経済	春	
	ミクロ経済学	2	1	経営・経済	秋	
	特殊講義(コンサルティング実務)	2	1	管理会計	秋	
	特殊講義(税務と会計)	2	1	横断科目	不開講	
	特殊講義(企業情報の読み方と使い方)	2	1	横断科目	秋前	57
	特殊講義(公会計論)<公会計論>	2	1	財務会計	秋	58
	特殊講義(会計検査制度論)	2	1	監査	秋	
	特殊講義(BATIC演習)<BATIC演習>	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(企業マネジメントと会計)	2	1	横断科目	春	32
	特殊講義(会計専門職業数学)	2	1	横断科目	春	
	特殊講義(IFRS演習)<IFRS実務>	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(病院経営の勘どころ・日本経営グループ寄附講座)	2	1	横断科目	秋後	59
	特殊講義(新規ビジネスの立上げと成長戦略)	2	1	横断科目	秋後	
	特殊講義(連結会計実務)	2	1	財務会計	秋	60
	特殊講義(公監査論)<公監査論>	2	2	監査	秋	61
	特殊講義(民法(債権))<民法(債権)>	2	2	法律・税務	春	
	特殊講義(資本市場論)<資本市場論>	2	2	経営・経済	春	33
	特殊講義(不正摘発監査論)<不正摘発監査論>	2	2	監査	春	34
	特殊講義(国際監査事例研究)<国際監査事例研究>	2	2	監査	秋	
	特殊講義(起業・株式公開事例研究)<起業・株式公開事例研究>	2	2	経営・経済	春	
	特殊講義(貸借対照表論)<特殊講義(負債・資本会計論)>	2	1	財務会計	秋	62

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
発展科目群	英文会計論	2	2	財務会計	秋	
	IFRS会計論<国際会計基準論>	2	2	財務会計	春	35
	組織再編会計論<企業結合会計>	2	2	財務会計	秋	
	コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋	
	企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	秋	
	マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	春	
	内部監査論	2	2	監査	春	
	国際監査基準論<国際監査制度論>	2	2	監査	春	
	上級会社法	2	2	法律・税務	春	36
	租税法理論	2	2	法律・税務	秋	63
	租税法会計論	2	2	法律・税務	秋	64
	国際税務論<国際税務戦略論>	2	2	法律・税務	春	37
	コーポレート・ファイナンス論	2	2	経営・経済	秋	
	インベストメント論	2	2	経営・経済	春	38
	マクロ経済学	2	2	経営・経済	春	
応用・実践科目群	基本会計プログラム演習	2	1	財務会計	秋	65・66
	会計事例研究	2	1	財務会計	春	39
	会社経理実務	2	1	財務会計	春	40
	管理会計事例研究	2	1	管理会計	秋	
	監査事例研究	2	1	監査	秋	67
	基本監査プログラム演習	2	1	監査	秋	68
	アカデミック・ソリューション<ソリューション・イン・アカデミック>	2	1	個別演習科目	通隔	69-71
	論文指導(導入)	2	1	個別演習科目	春	41
	論文指導(基礎)<論文指導・修士論文(基礎)>	2	1	個別演習科目	秋	72
	実践会計プログラム演習	2	2	財務会計	秋	
	IFRS事例研究<国際会計事例研究>	2	2	財務会計	春	
	ディスクロージャー実務	2	2	財務会計	春	42
	国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	春	
	実践監査プログラム演習	2	2	監査	春	
	企業法判例演習	2	2	法律・税務	秋	
	税務事例研究<上級税務戦略論>	2	2	法律・税務	春	
	企業実践コミュニケーション<実践コミュニケーション>	2	2	経営・経済	秋	
	プロフェッショナル・ソリューション<ソリューション・イン・エキスパートタイズ>	2	2	個別演習科目	通隔	73-75
	論文指導(実践)<論文指導・修士論文(実践)>	4	2	個別演習科目	通年	76-77
	総括					81

※掲載対象科目は、2021年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

※< >は、2017年度以前入学生用カリキュラムの科目名称です。

Ⅱ . 2021 年度授業評価アンケートフォーム

2021 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

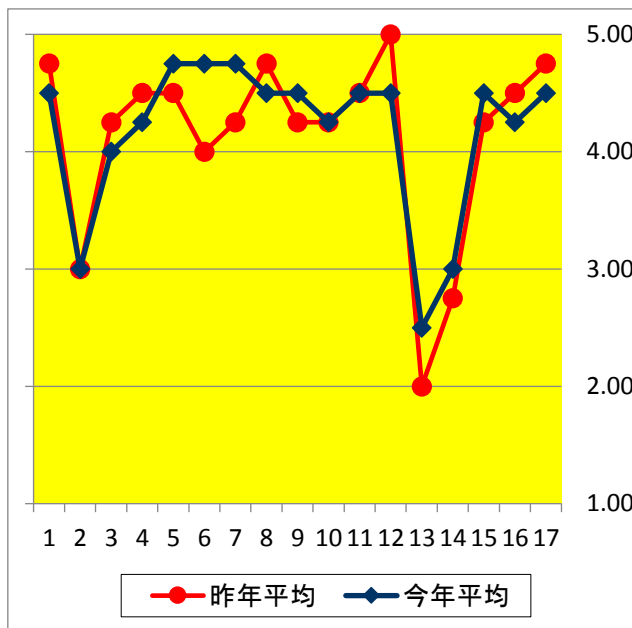
NO	質問内容	回答
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

— 以上 —

Ⅲ-(1). 2021 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	5	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.25	4.00	4	5	3
4	4.50	4.25	4	5	4
5	4.50	4.75	5	5	4
6	4.00	4.75	5	5	4
7	4.25	4.75	5	5	4
8	4.75	4.50	4・5	5	4
9	4.25	4.50	4・5	5	4
10	4.25	4.25	4	5	4
11	4.50	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	2.00	2.50	2	4	2
14	2.75	3.00	3	4	2
15	4.25	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.25	4	5	4
17	4.75	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	4			



受講生の傾向

受講生は1年次生で、簿記の学習経験のある学生が多かった。コロナ禍での授業として遠隔授業(Zoom)を行ったが、対面授業とは異なり、受講生は分からない問題等を気軽に質問することができない様子であった。今年度は第11回目以降の講義で対面授業を行うことができたため、受講生に遠隔授業と対面授業の感想をヒアリングしたところ、対面授業の方が細やかな指導を受けることができ、遠隔授業には満足していない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年の対面授業では、受講生が課題に取り組んでいる様子を目視して個別に指導し、各自の習熟度に合わせて質問対応を行うなど、全員の理解を一人ずつ確認して回っている。遠隔授業では、このような徹底した個別指導が難しく、この講義科目の趣旨や特性からして、遠隔授業は大きな制約であった。しかし、できるだけ対面授業に近い臨場感と緊張感をもってもらえるように、理解度のヒアリングとそれに基づくアドバイスを行った。また、学習のふりかえりとして追加的な問題を用意し、自宅での学習に資するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

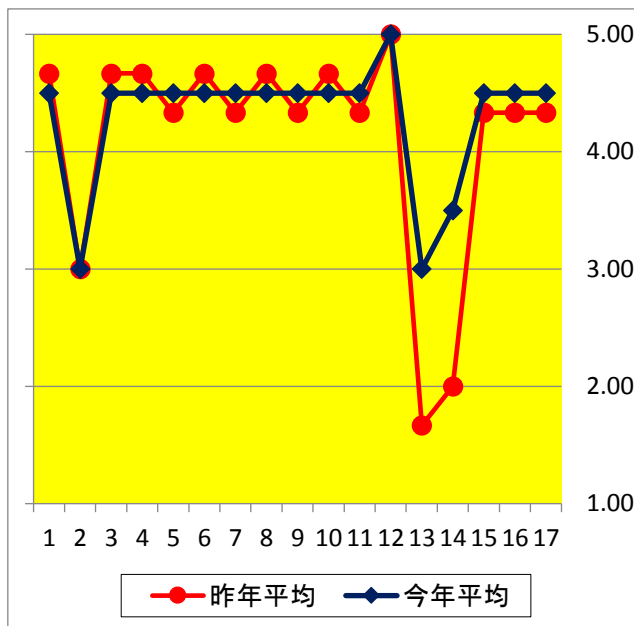
Zoomでの授業は、教員も受講生も初めてのことであり、操作が不慣れであることや、個別対応が難しいこと、相当程度のITスキルが求められること、また、端末の性能や通信環境の問題等から、教員側の理解させたいという気持ちと、受講生側の理解したいという気持ちが噛み合わず、空回りしているように感じた。授業評価アンケートの結果が全体的に低下していることから、この授業の特性としては、オンライン授業よりも対面授業の方が受講生のニーズに合致していると考えられる。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の遠隔授業(Zoom)と同様に、教員側の理解させたいという気持ちと、受講生側の理解したいという気持ちが噛み合わず、空回りしているように感じた。この講義科目の趣旨や特性に鑑み、遠隔授業よりも対面授業の方が受講生のニーズに合致している。今年度は、数回ではあるが対面授業を行うことができ、受講生とコミュニケーションをとることができたのは幸いであった。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	中級工業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金1
受講者数	5	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	4.50	4・5	5	4
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	4.67	4.50	4・5	5	4
7	4.33	4.50	4・5	5	4
8	4.67	4.50	4・5	5	4
9	4.33	4.50	4・5	5	4
10	4.67	4.50	4・5	5	4
11	4.33	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.67	3.00	2・4	4	2
14	2.00	3.50	3・4	4	3
15	4.33	4.50	4・5	5	4
16	4.33	4.50	4・5	5	4
17	4.33	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

本講義は、中級程度の簿記の知識を有しない受講生を対象とした導入科目である。授業方法は、新型コロナウイルス問題によりオンライン授業の期間と対面授業の期間があった。受講生は、基本的に真面目に出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の授業方法が全体としては良好な評価であったと考えられる。そのため、昨年の授業方法を基本的に維持しながらも、細かな点で対応を行うように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

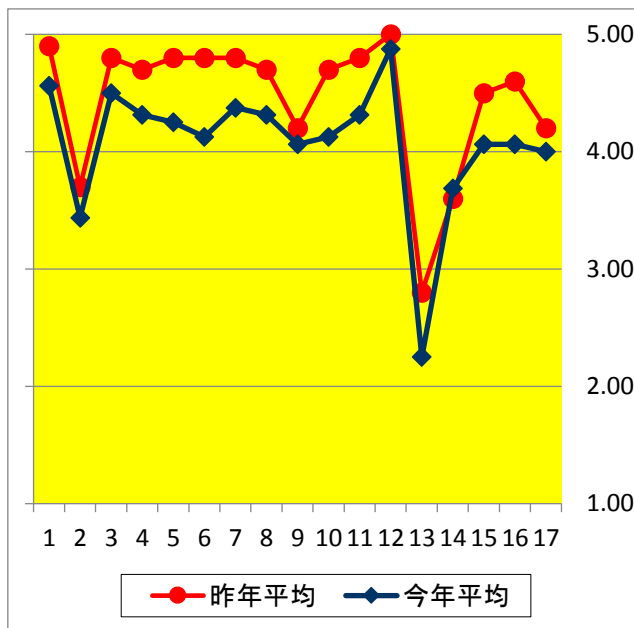
講義方法を前年から大きく変更したにもかかわらず、受講生からはおおむね講義計画に沿った授業が行われたという評価を受けた。しかしながら、複数の項目で評価が減少していることから、講義方法をさらに改善する必要があると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の評価と比較して、いくつかの項目では評点の増減が見られるが、全体としては昨年度に引き続き良好な評価を受けたといえる。そのため、本年度の取り組みを継続しながら、細かな点で改善を積み重ねる必要があると考えている。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	30	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.90	4.56	5	5	4
2	3.70	3.44	3	4	3
3	4.80	4.50	4・5	5	4
4	4.70	4.31	4・5	5	3
5	4.80	4.25	4	5	3
6	4.80	4.13	4	5	3
7	4.80	4.38	4	5	4
8	4.70	4.31	4	5	3
9	4.20	4.06	4	5	3
10	4.70	4.13	4	5	3
11	4.80	4.31	4	5	3
12	5.00	4.88	5	5	4
13	2.80	2.25	1	5	1
14	3.60	3.69	5	5	2
15	4.50	4.06	4	5	2
16	4.60	4.06	4	5	2
17	4.20	4.00	4	5	2
回答者数	10	16			



受講生の傾向

A1クラスの受講生は、ほぼ1年次生で構成されている。簿記の習熟度は全体的に低く、基礎力に欠ける受講生も散見された。第1回目から第4回目と第15回目は対面授業で行い、それ以外はコロナ禍での授業として遠隔授業（Zoom）を行ったが、対面授業とは異なり、受講生は分からない問題等を気軽に質問することができない様子であった。また、談笑中や移動中であるなど、授業を受ける姿勢に問題がある受講生もいた。簿記の習熟度が高い受講生でも、オンラインのテストでは実力を発揮できていない傾向にあり、この講義科目の特性として受講生の多くは遠隔授業に満足していない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、例年と同様に、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)を意識するように指導した。遠隔授業では、対面授業のように受講生が課題に取り組んでいる様子を目視して個別に指導することができず、全員の理解を一人ずつ確認して回ることもできなかった。また、板書して説明することが難しいため、もっぱら口頭での説明によらざるを得なかった。この講義科目の特性として、遠隔授業は大きな制約であった。そのため、ゆっくりと説明したり、繰り返し説明するなど、丁寧な説明を心掛けた。さらに、補習を含めて複数回の課外授業を行い、希望者には時間を延長して個別に指導するなど、昨年度の遠隔授業よりも正課外で多くの時間を設け、受講生の学習に資する機会を提供した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

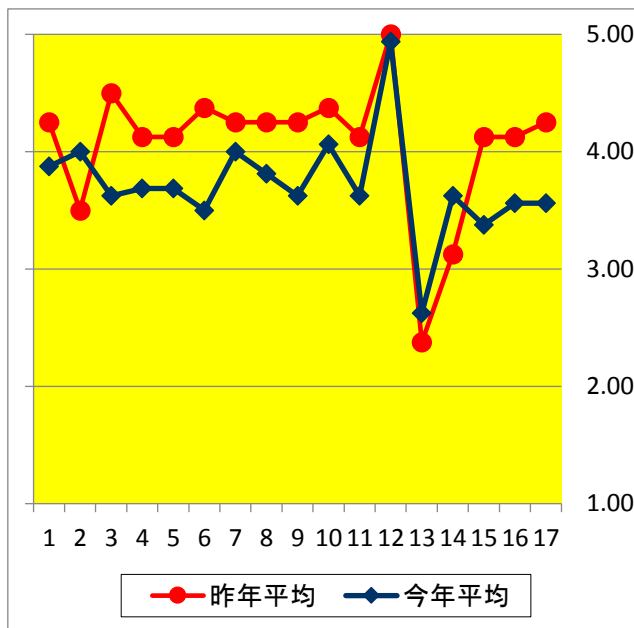
授業評価アンケートの結果は、昨年度の対面授業よりも今年度のオンライン授業の方が高くなっているが、だからといって、オンライン授業の方がよいと判断するのは早計である。成績で比べてみると、今年度の成績は、授業評価アンケートの高さに見合うだけの結果を残せていない。教育効果の観点からすれば、この授業の特性としては対面授業の方がよいだろう。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートの結果は、昨年度（遠隔授業）よりも全体的に下がっている。成績でみると、今年度の成績は、昨年度と比べて芳しくなく、前々年度（対面授業）と比べても芳しくない。教育効果の観点からすれば、この講義科目の特性として、遠隔授業よりも対面授業の方がよいであろう。実際、上級レベルの簿記のテストは、問題の特性上、オンラインでは実力を発揮することが難しく、受講生にヒアリングしても同じ意見であり、対面で受けることを希望する声が多い。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	31	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	3.88	4	5	1
2	3.50	4.00	4	5	3
3	4.50	3.63	4	5	1
4	4.13	3.69	4・5	5	1
5	4.13	3.69	4	5	1
6	4.38	3.50	4	5	1
7	4.25	4.00	4	5	1
8	4.25	3.81	4	5	1
9	4.25	3.63	4	5	1
10	4.38	4.06	4	5	3
11	4.13	3.63	5	5	1
12	5.00	4.94	5	5	4
13	2.38	2.63	2	5	1
14	3.13	3.63	3	5	2
15	4.13	3.38	4	5	1
16	4.13	3.56	4	5	1
17	4.25	3.56	4・5	5	1
回答者数	8	16			



受講生の傾向

A2クラスの受講生は、1年次生と2年次生以上で構成されており、1年次生が大半である。簿記の習熟度は全体的に低く、基礎力に欠ける受講生も散見された。第1回目から第4回目と第15回目は対面授業で行い、それ以外はコロナ禍での授業として遠隔授業（Zoom）を行ったが、対面授業とは異なり、受講生は分からない問題等を気軽に質問することができない様子であった。また、談笑中や移動中であるなど、授業を受ける姿勢に問題がある受講生もいた。簿記の習熟度が高い受講生でも、オンラインのテストでは実力を発揮できていない傾向にあり、この講義科目の特性として受講生の多くは遠隔授業に満足していない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、例年と同様に、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)を意識するように指導した。遠隔授業では、対面授業のように受講生が課題に取り組んでいる様子を目視して個別に指導することができず、全員の理解を一人ずつ確認して回ることもできなかった。また、板書して説明することが難しいため、もっぱら口頭での説明によらざるを得なかった。この講義科目の特性として、遠隔授業は大きな制約であった。そのため、ゆっくりと説明したり、繰り返し説明するなど、丁寧な説明を心掛けた。さらに、補習を含めて複数回の課外授業を行い、希望者には時間を延長して個別に指導するなど、昨年度の遠隔授業よりも正課外で多くの時間を設け、受講生の学習に資する機会を提供した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

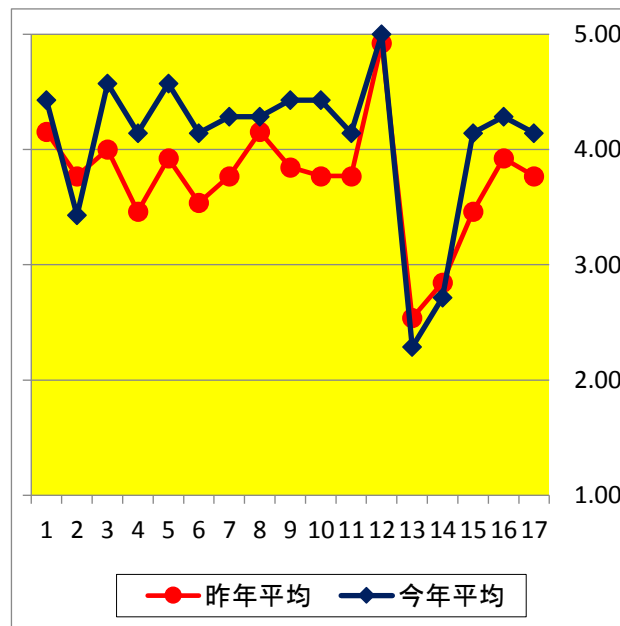
授業評価アンケートの結果は、昨年度の対面授業と今年度のオンライン授業で大差はないが、だからといって、どちらの講義形態でも同じであると判断するのは早計である。成績で比べてみると、今年度の成績は昨年度と比べて芳しくない。教育効果の観点からすれば、この授業の特性としては対面授業の方がよいだろう。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートの結果は、昨年度（遠隔授業）よりも全体的に下がっている。成績でみると、今年度の成績は、昨年度と比べて芳しくなく、前々年度（対面授業）と比べても芳しくない。教育効果の観点からすれば、この講義科目の特性として、遠隔授業よりも対面授業の方がよいであろう。実際、上級レベルの簿記のテストは、問題の特性上、オンラインでは実力を発揮することが難しく、受講生にヒアリングしても同じ意見であり、対面で受けることを希望する声が多い。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	29	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.15	4.43	4	5	4
2	3.77	3.43	3	4	3
3	4.00	4.57	5	5	4
4	3.46	4.14	4	5	4
5	3.92	4.57	5	5	4
6	3.54	4.14	4	5	4
7	3.77	4.29	4	5	4
8	4.15	4.29	4	5	4
9	3.85	4.43	4	5	4
10	3.77	4.43	4	5	4
11	3.77	4.14	4	5	4
12	4.92	5.00	5	5	5
13	2.54	2.29	2	4	2
14	2.85	2.71	2・3	4	2
15	3.46	4.14	4	5	3
16	3.92	4.29	4	5	4
17	3.77	4.14	4	5	4
回答者数	13	7			



受講生の傾向

今年度はA1クラス・A2クラスの2クラス開講であった。また、冒頭回においてコロナ禍の影響によりオンライン授業となったが、ほとんどの回で対面授業での開催となった。全回オンライン授業であった昨年度と比べ、受講生の満足度は高かったようである。講義が対面授業を前提に調整されていることや受講生への学習意欲への刺激が対面授業の方が効果的であることなどが考えられる。いずれにせよ、概ね真摯に受講していたと思われるが、オンラインが中心であった昨年度と比較して、予習・復習の時間が若干下っており、教室で学べばよいという姿勢が窺える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

早々にオンライン授業から対面授業に戻ったため、全回オンライン授業であった昨年度の結果と単純比較することはできないが、オンライン授業で利用した手法を一部取り入れ、資料の事前配布や小テストの関大LMSでの実施などを行うことにより、より濃密な授業内容となるよう工夫を講じている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

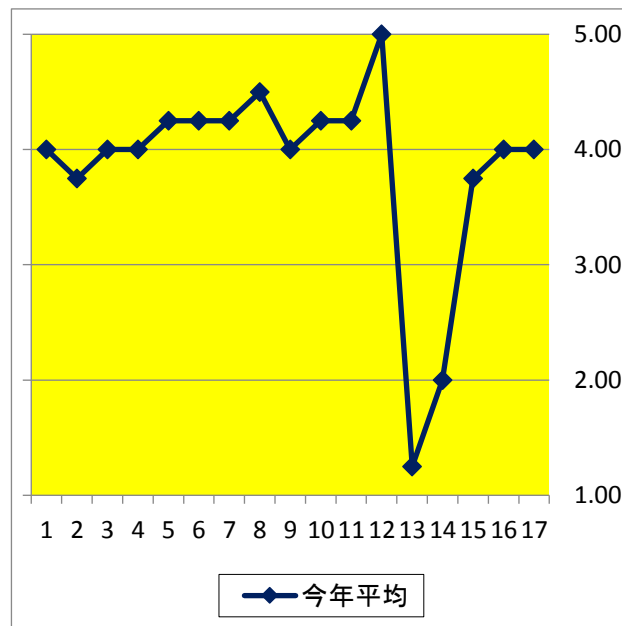
原則として対面での講義に戻るため、今年度のアンケート結果を踏まえた改善は難しいが、オンラインでの講義で試行錯誤した部分を対面での講義にも取り入れ、より効果的な資料の提示や予習・復習用の課題提示を行っている予定である。また、昨年度同様に、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評価結果が全回オンライン授業であった昨年度から一昨年度の対面授業の結果に改善していることを踏まえると、講義内容や実施方法の方向性は変化させる必要がないように思われる。追加的にオンライン授業で習得した手法を追加することで、資料の事前配布及び事後の追加配布などを行い、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

科 目	上級財務会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	21	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	5	3
2	—	3.75	4	4	3
3	—	4.00	4	5	3
4	—	4.00	4	5	3
5	—	4.25	4	5	4
6	—	4.25	4	5	4
7	—	4.25	4	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.00	4	5	3
10	—	4.25	4	5	4
11	—	4.25	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	1.25	1	2	1
14	—	2.00	1・3	3	1
15	—	3.75	3	5	3
16	—	4.00	4	5	3
17	—	4.00	4	5	3
回答者数	—	4			



受講生の傾向

今年度はA1クラス・A2クラスの2クラス開講であった。また、冒頭回においてコロナ禍の影響によりオンライン授業となったが、ほとんどの回で対面授業での開催となった。全回オンライン授業であった昨年度と比べ、受講生の満足度は高かったようである。講義が対面授業を前提に調整されていることや受講生への学習意欲への刺激が対面授業の方が効果的であることなどが考えられる。いずれにせよ、概ね真摯に受講していたと思われるが、オンラインが中心であった昨年度と比較して、予習・復習の時間が若干下っており、教室で学べばよいという姿勢が窺える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

早々にオンライン授業から対面授業に戻ったため、全回オンライン授業であった昨年度の結果と単純比較することはできないが、オンライン授業で利用した手法を一部取り入れ、資料の事前配布や小テストの関大LMSでの実施などを行うことにより、より濃密な授業内容となるよう工夫を講じている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

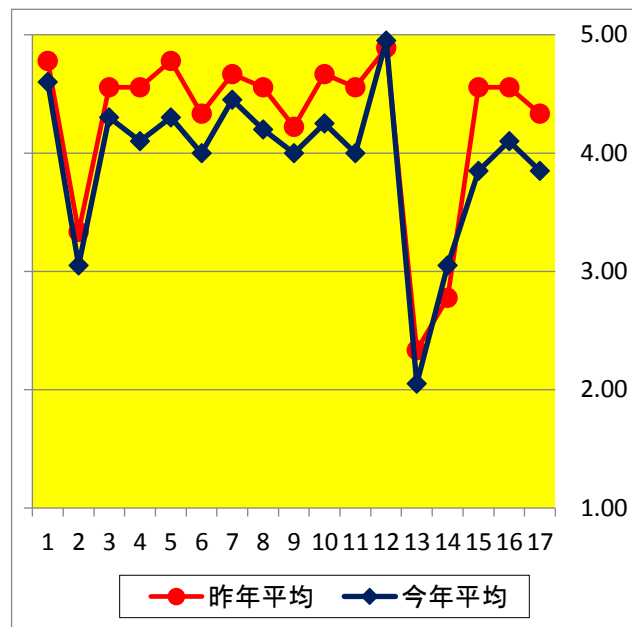
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

以下は、昨年度A1クラスにおける「今後の対応」を踏まえた記述である。評価結果が全回オンライン授業であった昨年度から一昨年度の対面授業の結果に改善していることを踏まえると、講義内容や実施方法の方向性は変化させる必要がないように思われる。追加的にオンライン授業で習得した手法を追加することで、資料の事前配布及び事後の追加配布などを行い、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2	
受講者数	26	回答者数	20	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.60	5	5	4
2	3.33	3.05	3	4	1
3	4.56	4.30	4	5	3
4	4.56	4.10	4	5	2
5	4.78	4.30	4	5	2
6	4.33	4.00	4	5	2
7	4.67	4.45	5	5	3
8	4.56	4.20	4	5	3
9	4.22	4.00	4	5	2
10	4.67	4.25	5	5	2
11	4.56	4.00	4・5	5	2
12	4.89	4.95	5	5	4
13	2.33	2.05	2	4	1
14	2.78	3.05	4	5	1
15	4.56	3.85	4	5	2
16	4.56	4.10	4	5	2
17	4.33	3.85	4	5	2
回答者数	9	20			



受講生の傾向

公認会計士試験の短答式合格者レベルから簿記2級レベルまで受講生の習熟度にばらつきがある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コロナの影響により講義の大半がリモート開催となり、中間試験及び期末試験ともにリモートでの開催となった。リモートでの試験に際して、解答の提出等について問題が生じないように事前に手順をまとめた動画を作成し、閲覧してもらうことで混乱を回避するように対応した。しかしながら、一部の受講生について解答ファイルを適切に保存できなかったなどの声があった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

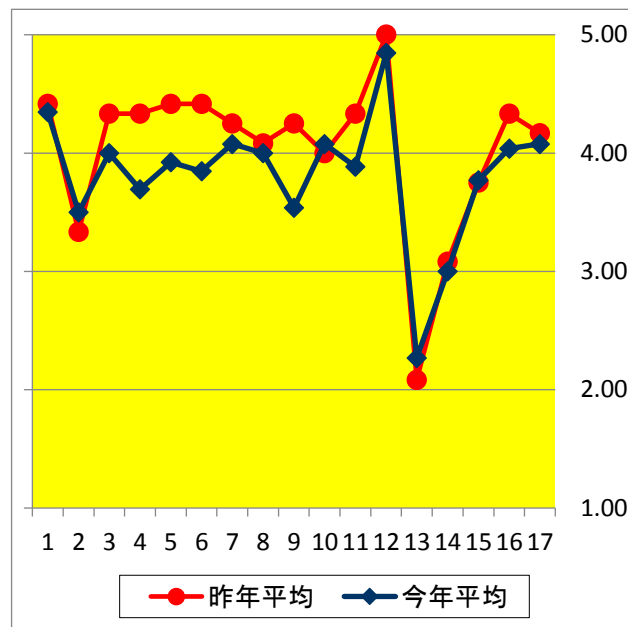
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コロナの状況によっては、今後もリモートでの講義となる可能性がある。しかし、中間試験及び期末試験については、解答方法等についての受講生の混乱を回避する観点及び試験の公平性を担保する観点から可能な限り、教室で試験を実施できるように調整したい。

科 目	上級原価計算論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3	
受講者数	30	回答者数	26	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.35	4	5	3
2	3.33	3.50	3	5	3
3	4.33	4.00	4	5	3
4	4.33	3.69	4	5	2
5	4.42	3.92	4	5	3
6	4.42	3.85	3	5	3
7	4.25	4.08	4	5	3
8	4.08	4.00	4	5	3
9	4.25	3.54	4	5	2
10	4.00	4.08	4	5	3
11	4.33	3.88	4	5	3
12	5.00	4.85	5	5	3
13	2.08	2.27	2	5	1
14	3.08	3.00	2	5	1
15	3.75	3.77	4	5	2
16	4.33	4.04	4	5	3
17	4.17	4.08	5	5	2
回答者数	12	26			



受講生の傾向

公認会計士試験の短答式合格者レベルから簿記2級レベルまで受講生の習熟度にばらつきがある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コロナの影響により講義の大半がリモート開催となり、中間試験及び期末試験ともにリモートでの開催となった。リモートでの試験に際して、解答の提出等について問題が生じないように事前に手順をまとめた動画を作成し、閲覧してもらうことで混乱を回避するように対応した。しかしながら、一部の受講生について解答ファイルを適切に保存できなかったなどの声があった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

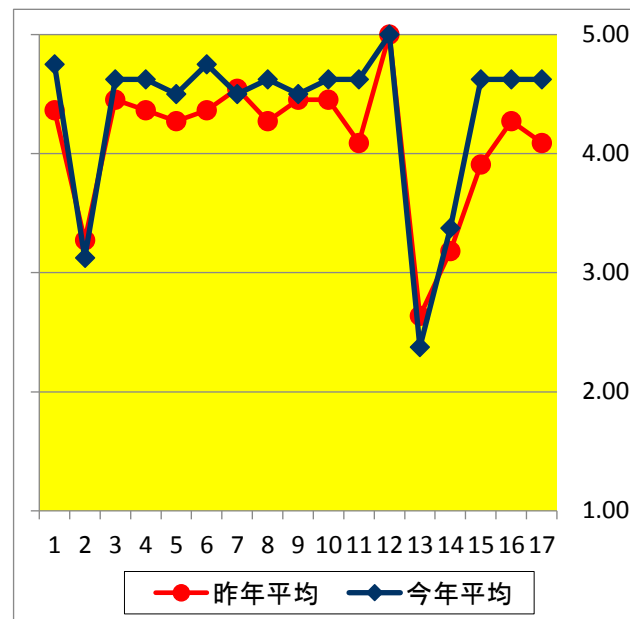
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コロナの状況によっては、今後もリモートでの講義となる可能性がある。しかし、中間試験及び期末試験については、解答方法等についての受講生の混乱を回避する観点及び試験の公平性を担保する観点から可能な限り、教室で試験を実施できるように調整したい。

科 目	上級管理会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	25	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.36	4.75	5	5	4
2	3.27	3.13	3	4	3
3	4.45	4.63	5	5	4
4	4.36	4.63	5	5	4
5	4.27	4.50	4・5	5	4
6	4.36	4.75	5	5	4
7	4.55	4.50	4・5	5	4
8	4.27	4.63	5	5	4
9	4.45	4.50	4・5	5	4
10	4.45	4.63	5	5	4
11	4.09	4.63	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.64	2.38	2	4	2
14	3.18	3.38	3	5	2
15	3.91	4.63	5	5	4
16	4.27	4.63	5	5	4
17	4.09	4.63	5	5	4
回答者数	11	8			



受講生の傾向

本講義は、会計専門職大学院の必修科目である基本科目のひとつである。講義方法は、新型コロナウイルス問題の影響を受けて、遠隔講義の期間と対面講義の期間に分けられる。受講生は基本的に真面目に出席して受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は遠隔講義を初めて実施した年度であり、講義方法を大幅に変更したため評点が低下した。そこで、本年度は昨年度の講義方法に基づきながら、昨年に判明した問題点の改善を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

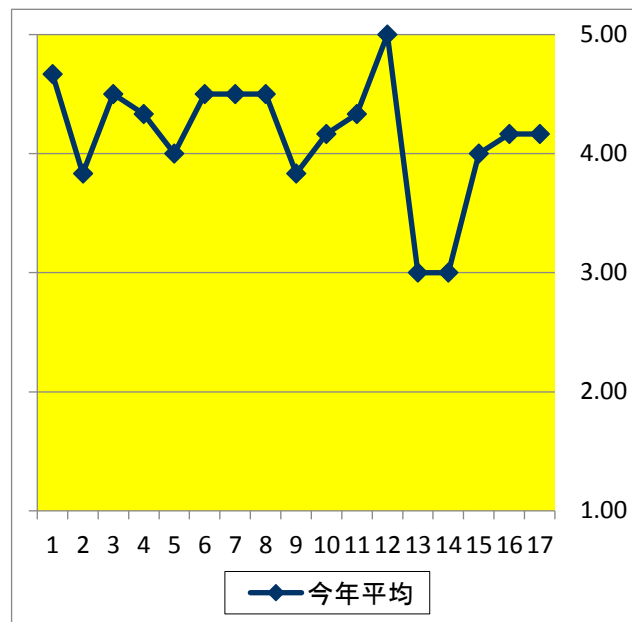
講義方法が前年度から大きく変更されたが、受講生からは講義計画に沿った授業であるという評価を受けた。しかしながら、講義の全体的な評点はやや低下傾向にあるため、さらに講義方法を改善する必要性を感じた。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と比べて、多くの項目で評点が増加した。そのため、本年度の取り組みを継続しながら、細かな改善を積み重ねることが必要だと考えている。

科 目	上級管理会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	26	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	4
2	—	3.83	4	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.00	4	5	3
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	3.83	4	4	3
10	—	4.17	4	5	4
11	—	4.33	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	2	5	2
14	—	3.00	2・3・4	4	2
15	—	4.00	4	5	3
16	—	4.17	4	5	4
17	—	4.17	4	5	4
回答者数	—	6			



受講生の傾向

本講義は、会計専門職大学院の必修科目である基本科目のひとつである。従来の春学期の「上級管理会計論」は1クラス編成(A1クラス)で授業を行っていたが、本年度は受講生の増加に伴って本クラス(A2クラス)が追加された。講義方法は、新型コロナウイルス問題の影響を受けて、遠隔講義の期間と対面講義の期間に分けられる。受講生は基本的に真面目に出席して受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度(上級管理会計論A1クラスを参照)は遠隔講義を初めて実施した年度であり、講義方法を大幅に変更したため評点が低下した。そこで、本年度は昨年度の講義方法に基づきながら、昨年に判明した問題点の改善を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

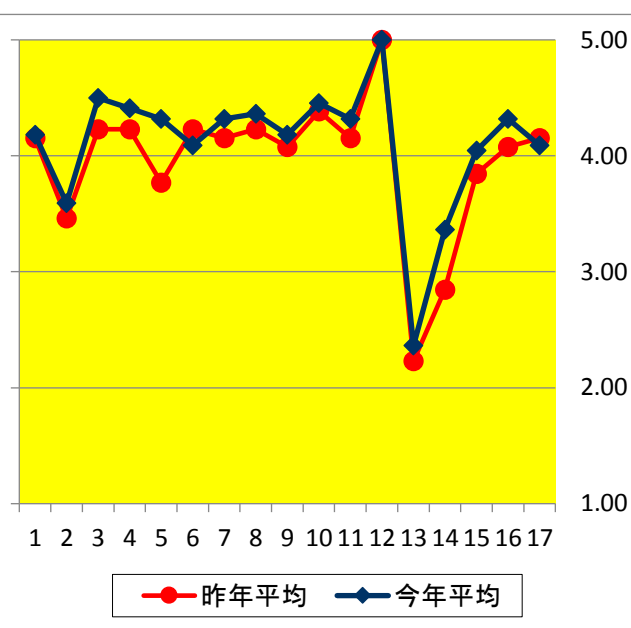
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度(上級管理会計論A1クラス参照)と比べて、評価が改善した項目と低下した項目があった。また、本年度のA1クラスと比べて評点の低い項目が多かった。そのため、受講者の状況をよく見て改善を積み重ねることが必要だと考えている。

科目	監査制度論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	27	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.15	4.18	4	5	2
2	3.46	3.59	3	5	3
3	4.23	4.50	5	5	3
4	4.23	4.41	5	5	3
5	3.77	4.32	5	5	3
6	4.23	4.09	4	5	1
7	4.15	4.32	4	5	4
8	4.23	4.36	4・5	5	3
9	4.08	4.18	4	5	2
10	4.38	4.45	4	5	4
11	4.15	4.32	4	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.23	2.36	2	5	1
14	2.85	3.36	2	5	2
15	3.85	4.05	4	5	3
16	4.08	4.32	4	5	3
17	4.15	4.09	4	5	2
回答者数	13	22			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は100%と極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。

昨年度の春学期クラスAと異なり対面による講義となったこともあり、講義進度はほぼ適切である(項目2)とされ、全体的に評価は向上している。特に教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、機材の使い方(項目7)に対する項目で、昨年実績より高い評価を得ている。また課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も去年より増加しており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)に繋がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ここ数年連続して監査基準改訂が続いたため、改訂監査基準及び実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによる教材を配布した。また配布資料の最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日までにアップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。

例年通り、2回分の授業が終了するごとに、当該2回分の理解度を確認する目的と復習を動機付けるために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週回に小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、添削の際のポイントを解説するとともに優秀答案を氏名を伏せて配布した。最終的に講義2回→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

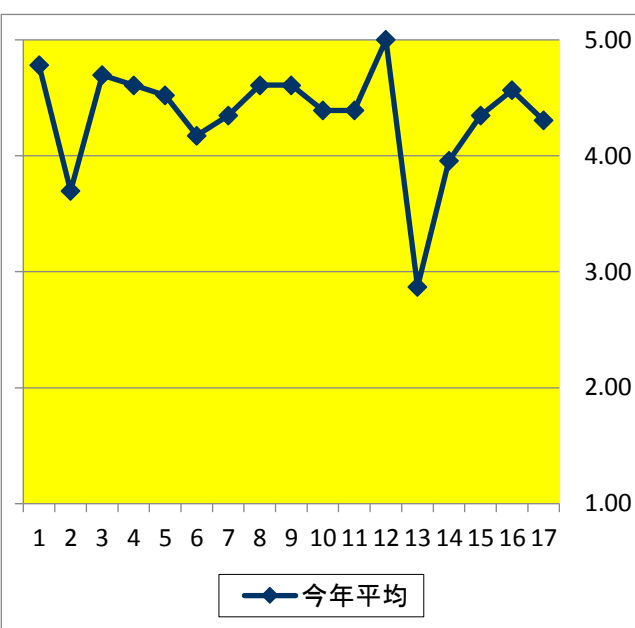
オンラインによる講義形式の場合、授業評価アンケートの回収率にも表われているように、受講生の積極的な関与を可能とする方法を特別に案出する必要がある。今後、オンライン講義を行う場合、単に課題を課すだけでなく、講義中のランダムな質疑応答をオンラインで実施して緊張感を維持しなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義終了時に、次に実施する小テストの範囲に言及するとともに、実施可能な復習課題の範囲を明示することで、受講生に復習を促すようにする必要がある。

科 目	監査制度論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後火3・金2
受講者数	26	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.78	5	5	4
2	—	3.70	4	5	2
3	—	4.70	5	5	4
4	—	4.61	5	5	3
5	—	4.52	5	5	3
6	—	4.17	5	5	2
7	—	4.35	4	5	3
8	—	4.61	5	5	3
9	—	4.61	5	5	3
10	—	4.39	4	5	3
11	—	4.39	5	5	3
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.87	1	5	1
14	—	3.96	5	5	2
15	—	4.35	5	5	2
16	—	4.57	5	5	3
17	—	4.30	4	5	3
回答者数	—	23			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は100%と極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。

今年度はA1クラスと併行してA2クラスも開講され、また対面による講義となったこともあり、講義進度はほぼ適切である(項目2)と評価され、全体的に評価は高くなっている。特に教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、教科書・配布資料(項目6)、機材の使い方(項目7)に対する項目でも高い評価を得ている。また課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も1時間以上となっており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)に繋がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度はA2クラスは開講していない。

A1クラスと同じ工夫をしており、かつ留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

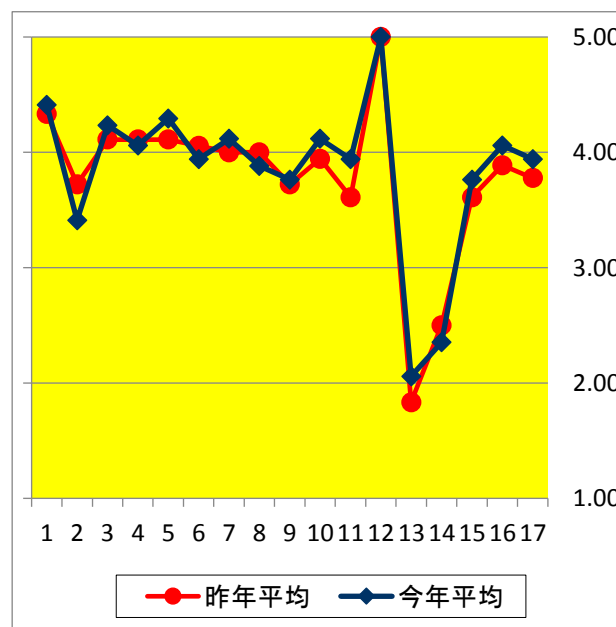
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義終了時に、実施可能な復習課題の範囲を明示し、次に実施する小テストの範囲に言及することで、受講生に復習を促すようにする必要がある。

科 目	監査基準論<監査基準>(A1)			
配当年次	1	開講時限	春水2	
受講者数	21	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.41	4	5	4
2	3.72	3.41	3	4	3
3	4.11	4.24	4	5	3
4	4.11	4.06	4	5	3
5	4.11	4.29	4	5	2
6	4.06	3.94	4	5	2
7	4.00	4.12	4	5	3
8	4.00	3.88	4	5	3
9	3.72	3.76	4	5	2
10	3.94	4.12	4	5	4
11	3.61	3.94	4	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.83	2.06	1・2	5	1
14	2.50	2.35	2	5	1
15	3.61	3.76	4	5	2
16	3.89	4.06	4	5	3
17	3.78	3.94	4	5	3
回答者数	18	17			



受講生の傾向

前回から大きな変動はないが、2問目の授業スピードが「3:ちょうど良い」に0.25ポイントほど寄ったのと、「11:授業満足度」が0.5ポイントほど高くなった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

質問の機会を増やすことはできなかったが、授業スピードを抑制し、提示資料も削減した結果、授業満足度は少し増加したと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

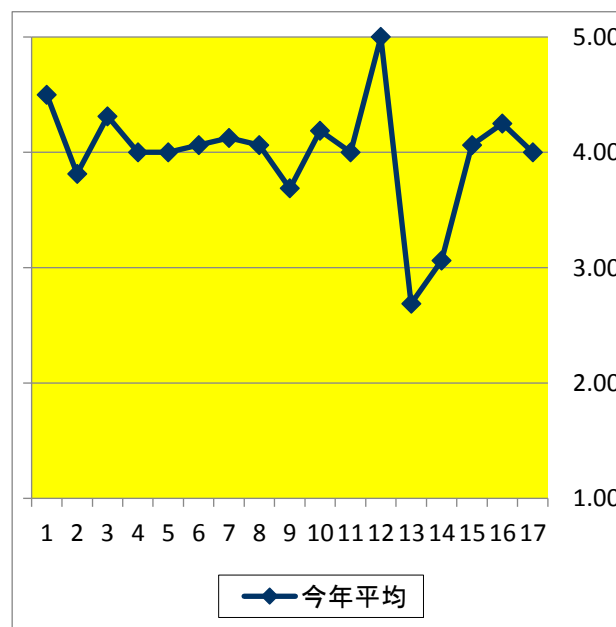
授業スピードを抑制し、提示資料も削減の上、質問の機会を設ける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き授業スピードは抑制し、提示資料も抑制のうえ、メリハリをつけた授業を行う。

科 目	監査基準論<監査基準>(A2)			
配当年次	1	開講時限	春水3	
受講者数	16	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.81	3	5	3
3	—	4.31	4	5	4
4	—	4.00	4	5	3
5	—	4.00	4	5	2
6	—	4.06	4	5	3
7	—	4.13	4	5	3
8	—	4.06	4	5	3
9	—	3.69	3・4	5	3
10	—	4.19	4	5	3
11	—	4.00	4	5	3
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.69	2	5	1
14	—	3.06	2	5	2
15	—	4.06	4	5	2
16	—	4.25	4	5	3
17	—	4.00	4	5	3
回答者数	—	16			



受講生の傾向

<2限目と同じとみなして記載>

前回から大きな変動はないが、2問目の授業スピードが「3:ちょうど良い」に0.25ポイントほど寄ったのと、「11:授業満足度」が0.5ポイントほど高くなった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

<2限目と同じとみなして記載>

質問の機会を増やすことはできなかったが、授業スピードを抑制し、提示資料も削減した結果、授業満足度は少し増加したと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度不開講)

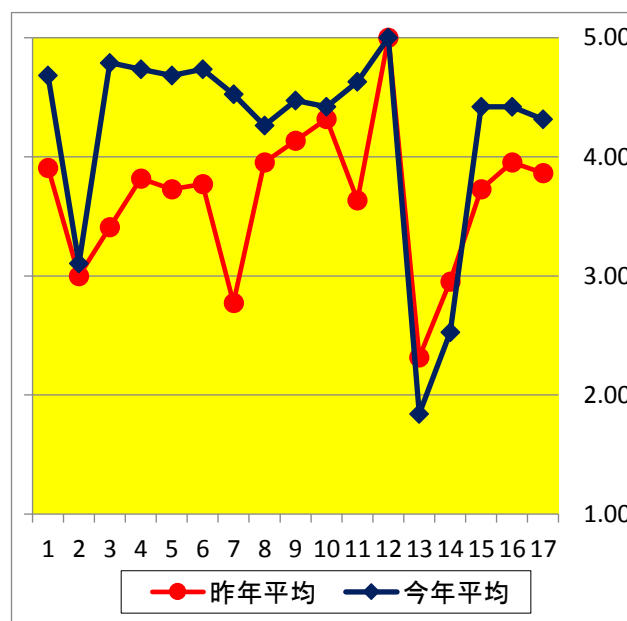
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

<2限目と同じとみなして記載>

引き続き授業スピードは抑制し、提示資料も抑制のうえ、メリハリをつけた授業を行う。

科 目	企業法(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3	
受講者数	22	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.91	4.68	5	5	4
2	3.00	3.11	3	4	3
3	3.41	4.79	5	5	4
4	3.82	4.74	5	5	4
5	3.73	4.68	5	5	4
6	3.77	4.74	5	5	4
7	2.77	4.53	5	5	3
8	3.95	4.26	4・5	5	3
9	4.14	4.47	5	5	3
10	4.32	4.42	5	5	2
11	3.64	4.63	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.32	1.84	2	3	1
14	2.95	2.53	3	4	1
15	3.73	4.42	5	5	3
16	3.95	4.42	4・5	5	3
17	3.86	4.32	4	5	3
回答者数	22	19			



受講生の傾向

今年度は入学者数および履修者数の関係で春学期の企業法はA1クラスとA2クラスに分かれている。それゆえ、今回の企業法A1クラスは履修者数22名となった。企業法は春学期前半クォーターで、授業の序盤は対面授業であったが、中盤以降はZOOMによるオンライン授業となった。そのような状況ではあったが、学生の受講態度としては、対面・オンラインを含めて、出席率もよく、授業態度も良好であった。また、課題等にも積極的に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、学術研究員期間であったので、私が本授業を行うことはなかったが、今回の授業で工夫した点・留意した点については、期間の大半がオンライン授業となったが、対面授業と比べてあまり遜色がないように効果的な授業を行うことを心掛けた。具体的には、レジュメを中心とした授業のみならず、液タブのホワイトボードを活用することによって、対面授業と同様の臨場感のある授業とするようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

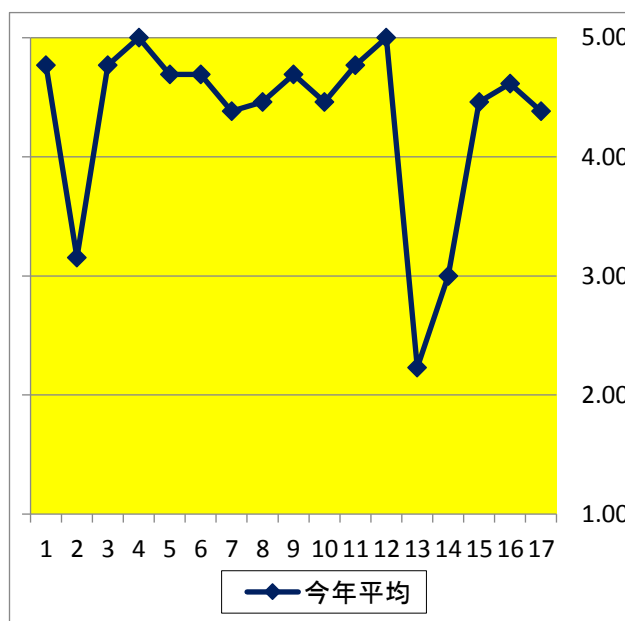
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度については、コロナ禍の状況がどのように変化し、授業にどのような影響を与えるのかわからないため、これまでの経験を生かして、臨機応変に対応していきたい。また、通常の対面授業に戻ったとしても、オンライン授業下での効果的な取り組みについては、続けていきたい。

科 目	企業法(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前火3・金2	
受講者数	19	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.77	5	5	4
2	—	3.15	3	4	3
3	—	4.77	5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.69	5	5	4
6	—	4.69	5	5	4
7	—	4.38	5	5	2
8	—	4.46	4	5	4
9	—	4.69	5	5	4
10	—	4.46	5	5	3
11	—	4.77	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.23	2	4	1
14	—	3.00	3	5	2
15	—	4.46	4	5	4
16	—	4.62	5	5	4
17	—	4.38	4・5	5	3
回答者数	—	13			



受講生の傾向

企業法A1クラスのところでも述べたが、今年度は入学者数および履修者数の関係で春学期の企業法はA1クラスとA2クラスに分かれている。それゆえ、今回の企業法A2クラスは履修者数19名となった。以下においても、A1クラスで述べたことと同様であるが、企業法は春学期前半クォーターで、授業の序盤は対面授業であったが、中盤以降はZOOMIによるオンライン授業となった。そのような状況ではあったが、A1クラスと同様、学生の受講態度としては、対面・オンラインを含めて、出席率もよく(ややA1クラスに比べると出席率は劣るようではあるが)、授業態度も良好であった。また、課題等にも積極的に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、学術研究員期間であったので、私が本授業を行うことはなかったが、今回の授業で工夫した点・留意した点については、A1クラスで行ったことと同様であるが、期間の大半がオンライン授業となったが、対面授業と比べてあまり遜色がないように効果的な授業を行うことを心掛けた。具体的には、レジュメを中心とした授業のみならず、液タブのホワイトボードを活用することによって、対面授業と同様の臨場感のある授業とするようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

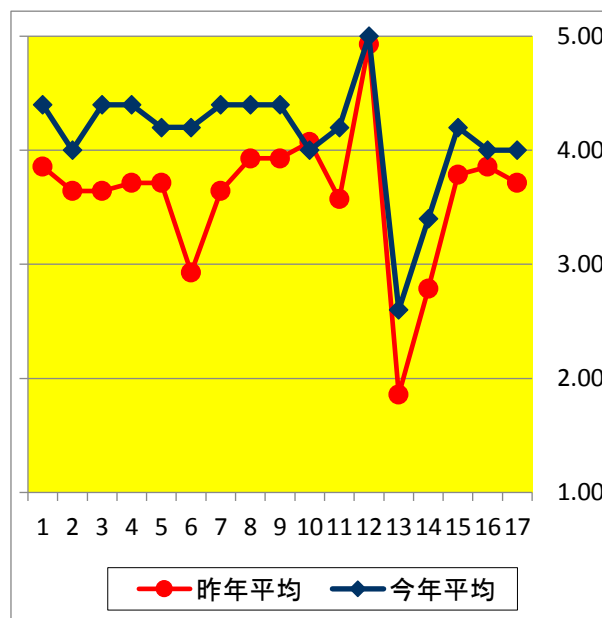
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度については、コロナ禍の状況がどのように変化し、授業にどのような影響を与えるのかわからないため、これまでの経験を生かして、臨機応変に対応していきたい。また、通常の対面授業に戻ったとしても、オンライン授業下での効果的な取り組みについては、続けていきたい。

科目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	春月1	
受講者数	34	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.86	4.40	4	5	4
2	3.64	4.00	4	5	3
3	3.64	4.40	4	5	4
4	3.71	4.40	4	5	4
5	3.71	4.20	4・5	5	3
6	2.93	4.20	4・5	5	3
7	3.64	4.40	4	5	4
8	3.93	4.40	4	5	4
9	3.93	4.40	5	5	3
10	4.07	4.00	4・5	5	2
11	3.57	4.20	4・5	5	3
12	4.93	5.00	5	5	5
13	1.86	2.60	3	3	2
14	2.79	3.40	3	5	2
15	3.79	4.20	4	5	4
16	3.86	4.00	4	5	3
17	3.71	4.00	4	5	3
回答者数	14	5			



受講生の傾向

講義期間開始後2回ほどでオンライン授業となり、後半で再び対面授業となり、受講生には戸惑う状況であったと想像される。とはいえ、冒頭2回ほど対面授業であったため、講義の雰囲気や認識した状態でのオンライン授業への移行ということもあり、また、後半は対面授業であったことから、全回オンライン授業であった昨年度と比較し、授業の向き合い方が全回対面授業であった一昨年度と同程度になっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全回オンライン授業となった昨年度において、対面授業を前提とした配布資料や講義中に示す資料であったため、オンラインを想定した資料作成に調整した。また、後半において対面授業であったため、前半部分で生じた受講生の戸惑いを払拭できるよう意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

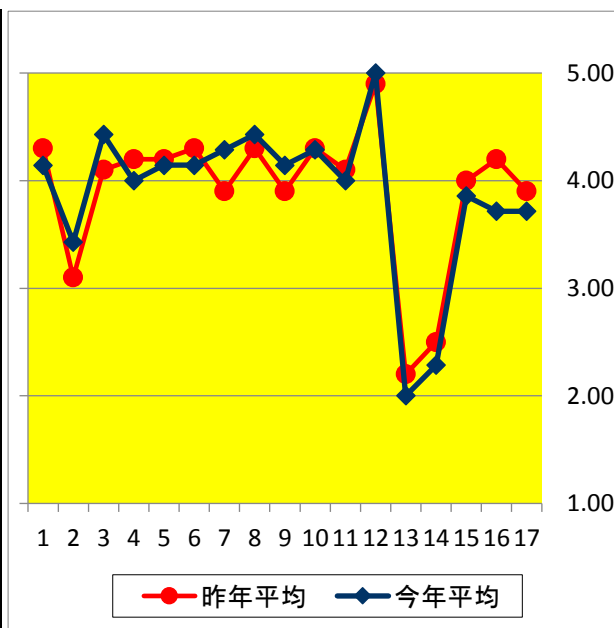
原則として対面での講義に戻るため、今年度のアンケート結果を踏まえた改善は難しいが、オンラインでの講義で試行錯誤した部分を対面での講義にも取り入れ、より効果的な資料の提示や予習・復習用の課題提示を行っている予定である。昨年度以前の現象としての受講生の受講態度や学習意欲が二極化については、オンラインであったため不明であるが、二極化したままである可能性を想定し、資料や課題作成に工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

オンライン授業となった場合に備えた資料の調整を進めるとともに、一昨年度以前まで生じていたと思われる受講生の受講態度や学習意欲が二極化については、十分に受講の準備ができていない受講生に対しては、予習・復習を促し、小テストの結果に応じた追加的な資料作成などの工夫を模索してみようと思う。また、十分に受講準備ができていない受講生には、より正確な理解ができるような説明や資料作成など工夫を講じるつもりである。

科目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	春月4	
受講者数	23	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.30	4.14	5	5	3
2	3.10	3.43	3	4	3
3	4.10	4.43	4	5	4
4	4.20	4.00	4	5	3
5	4.20	4.14	5	5	3
6	4.30	4.14	5	5	3
7	3.90	4.29	4・5	5	3
8	4.30	4.43	4	5	4
9	3.90	4.14	5	5	3
10	4.30	4.29	4・5	5	3
11	4.10	4.00	3・5	5	3
12	4.90	5.00	5	5	5
13	2.20	2.00	1	4	1
14	2.50	2.29	1・2・3	4	1
15	4.00	3.86	5	5	2
16	4.20	3.71	3・4・5	5	2
17	3.90	3.71	3・4・5	5	2
回答者数	10	7			



受講生の傾向

履修生23名、合格者16名。そのうちの回答者7名であり、全体的な傾向をつかみにくい。ただし、課題を10回提出させていて、2名が脱落。毎週課題を与えると、徐々に履修者間の学習の差がはっきりしてくる。出席しているかどうかよりも、復習を兼ねた課題に取り組むかどうかで合否が分かれた。つまり出席していても課題にまともに取り組まない者数名は最終的に不合格となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計制度論は会計大学院開校以来毎年開講していて、講義内容も定着してきている。特に、今年はということはないが、与える資料が年々多くなっているのを、年表、関連WEBサイトの紹介などを行い、興味を引くような工夫は行っている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

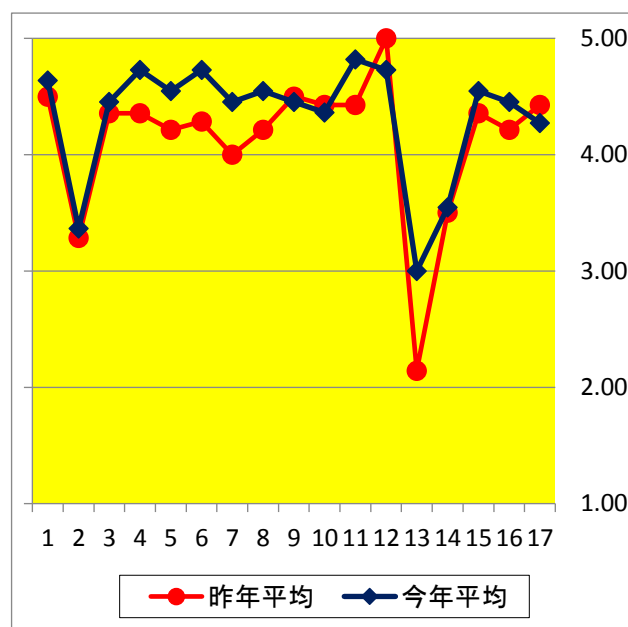
次年度はZOOMか対面かはわからないが、基本的な方針は変えずに行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度も対面であろうと、遠隔であろうと基本方針は変えないが、遠隔の場合には授業中の履修者の理解度を表情から読み取りにくく、課題が有効な手段となろう。対面の場合にも回数を減らして課題を与えることを考える。

科 目	商取引法＜商法＞		
配当年次	1	開講時限	春火1
受講者数	16	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.64	5	5	4
2	3.29	3.36	3	4	3
3	4.36	4.45	4	5	4
4	4.36	4.73	5	5	4
5	4.21	4.55	5	5	3
6	4.29	4.73	5	5	3
7	4.00	4.45	5	5	3
8	4.21	4.55	5	5	3
9	4.50	4.45	5	5	3
10	4.43	4.36	4・5	5	3
11	4.43	4.82	5	5	4
12	5.00	4.73	5	5	4
13	2.14	3.00	5	5	1
14	3.50	3.55	3	5	2
15	4.36	4.55	5	5	4
16	4.21	4.45	5	5	3
17	4.43	4.27	4	5	3
回答者数	14	11			



受講生の傾向

商取引法は、私の学術研究員期間のため、2018年度以降2年ぶりとなった。今年度は16名が履修登録を行っており、これまでの履修者数と比べると若干少ないと思う。授業については商法総則商行為法および金融商品取引法を扱うものであるから、分量も多くやや難易度も高いと思うが、受講生は比較的熱心に取り組み出席率もよく、課題もしっかりとこなしていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、私は学術研究員期間中であったので本授業を行うことはなかったが、今年度はコロナ禍のもと、前半対面授業、途中オンライン授業、後半再び対面授業というスタイルで授業を行った。そういう状況のもと、途中のオンライン授業となったときにも特に課題や授業進行において工夫するなどして、教育効果が下がらないように心がけた。また、補助授業(教材)として、自ら授業動画を録画して配信し、適宜見られるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

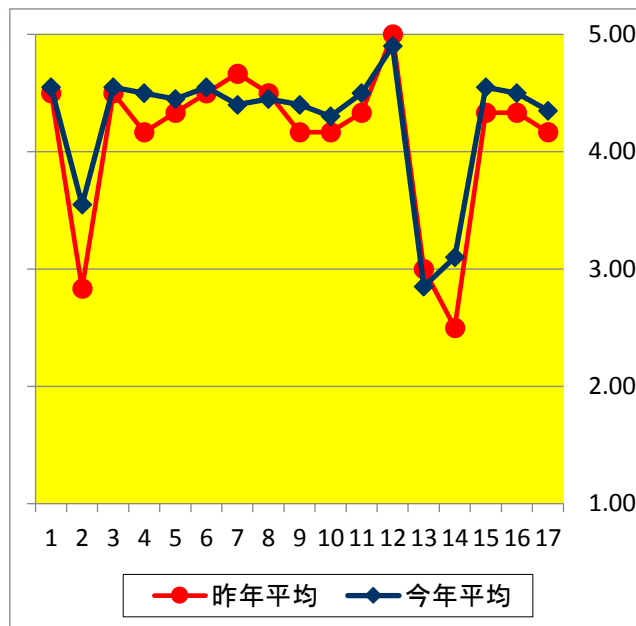
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後もコロナ禍の状況はどのようになるかわからないので、オンライン授業となっても対面授業よりも教育効果が下がらないよう配慮し、さらにはオンライン授業の体験をもとに、対面授業の場合にも生かしていきたい。上でも記述したが、自ら授業動画を録画して配信するという補助授業(教材)の利用など、活用していきたい。

科 目	法人税法			
配当年次	1	開講時限	春火4	
受講者数	26	回答者数	20	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.55	5	5	4
2	2.83	3.55	3	5	3
3	4.50	4.55	5	5	4
4	4.17	4.50	5	5	3
5	4.33	4.45	5	5	3
6	4.50	4.55	5	5	4
7	4.67	4.40	4	5	4
8	4.50	4.45	5	5	3
9	4.17	4.40	4	5	3
10	4.17	4.30	4	5	3
11	4.33	4.50	5	5	3
12	5.00	4.90	5	5	4
13	3.00	2.85	2・3	5	1
14	2.50	3.10	3	5	2
15	4.33	4.55	5	5	4
16	4.33	4.50	4・5	5	4
17	4.17	4.35	4・5	5	3
回答者数	6	20			



受講生の傾向

受講生の構成は、税理士志望者が15名、残りが公認会計士志望者と留学生であった。質問No.13の通り、予習の時間が0時間の受講生がいるなど、本年度の受講生は積極的に授業に取り組んでいるとはいえず、成績も全体的に前年度を下回る結果となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1に、公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つのファイルに分け、後者には解答だけでなく、論述のポイントや取引図を含め、詳細な説明を付した。第2に、判例に関する課題レポートには、必ず取引図を描かせ、その図の中に争点となる条文番号を付すよう指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

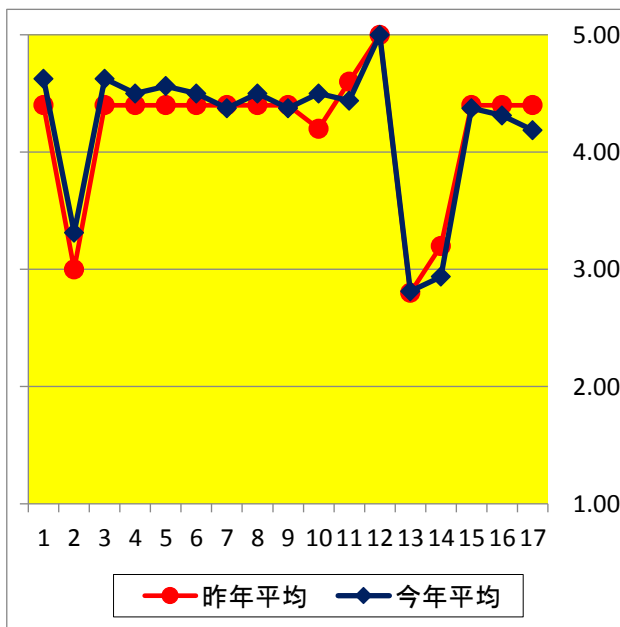
公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つに分けるという方法は、Zoomによる授業への対応から採用したものであったが、方法として有効であったように思われる。次年度も引き続き、この方法を継続していきたい。また、公認会計士試験における論述問題に対応するため、受講生に記述させる時間を授業内で確保する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

定期試験の結果から、論述を苦手とする多くの受講生がいることを確認した。授業内で論述問題を解かせ、その解答を受講生間で共有し、受講生の論述力向上を図りたい。

科 目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	春月4	
受講者数	30	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.63	5	5	4
2	3.00	3.31	3	4	3
3	4.40	4.63	5	5	3
4	4.40	4.50	4・5	5	4
5	4.40	4.56	5	5	4
6	4.40	4.50	4・5	5	4
7	4.40	4.38	4	5	4
8	4.40	4.50	5	5	3
9	4.40	4.38	4	5	4
10	4.20	4.50	4・5	5	4
11	4.60	4.44	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.80	2.81	3	5	1
14	3.20	2.94	2・3	5	1
15	4.40	4.38	4	5	4
16	4.40	4.31	4	5	4
17	4.40	4.19	4	5	3
回答者数	5	16			



受講生の傾向

受講生30名のうち、公認会計士志望8名、税理士志望13名、その他9名であった。また、既修者は6名と受講生全体の20%しかいなかったため、授業の進度を前年度より緩やかにした(アンケートのNo.2)。今年度の特徴としては、第8回講義後に実施した小テストの成績は概ね良好だったにもかかわらず、定期試験では成績の二極化が確認された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

「昨年度の授業評価アンケートで記載した『今後の対応』」の内容に加えて、特に初学者を意識しつつ、解答にいたるまでの詳細な説明を付した資料を利用してもらいながら、受講生に計算問題を解かせることを試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

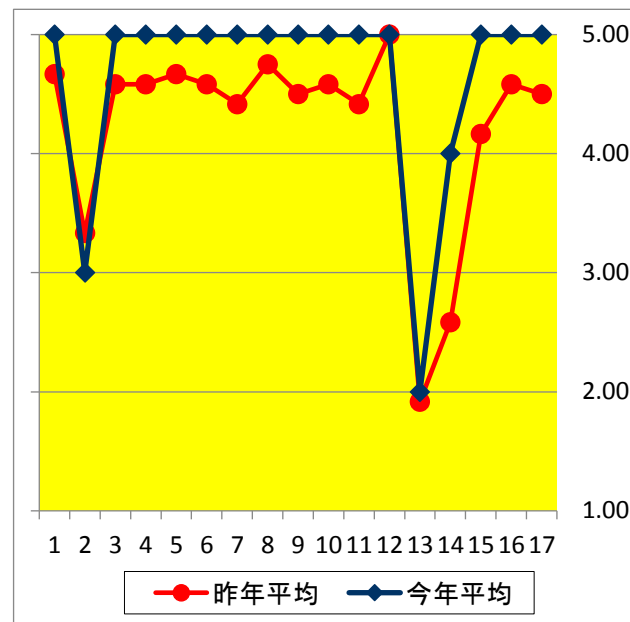
公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つに分けるという方法(解答だけでなく、計算過程などの詳細説明を付し、授業後に速やかにLMSへアップ)は、Zoomによる授業への対応から採用したものであったが、方法として有効であったように思われる。次年度も引き続き、この方法を継続していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度の対応は、特に税務会計の初学者に対して計算プロセスを理解させるという意味において有効だったようである。今後も継続して行っていきたい。また、今年度の特徴として、第9回講義以降の内容に上手くついていけない受講生が多かったと思われる。第9回講義以降の内容を一部前倒しするなど、各回の学習量を再検討したい。

科 目	特殊講義(企業マネジメントと会計)			
配当年次	1	開講時限	春火4	
受講者数	8	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.58	5.00	5	5	5
4	4.58	5.00	5	5	5
5	4.67	5.00	5	5	5
6	4.58	5.00	5	5	5
7	4.42	5.00	5	5	5
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.50	5.00	5	5	5
10	4.58	5.00	5	5	5
11	4.42	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.92	2.00	2	2	2
14	2.58	4.00	4	4	4
15	4.17	5.00	5	5	5
16	4.58	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	12	1			



受講生の傾向

履修者は8名で、出席率もよく、真面目であったが、回答者が1名なのでクラス全体の傾向を把握することが難しい。ただ、回答者にとっては満足度が高かったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計に関する基礎知識がある履修生を対象としているので、効果的な講義ができたと思う。各自に企業を選択させ、当該企業の財務諸表分析を含む、企業研究を行わせた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

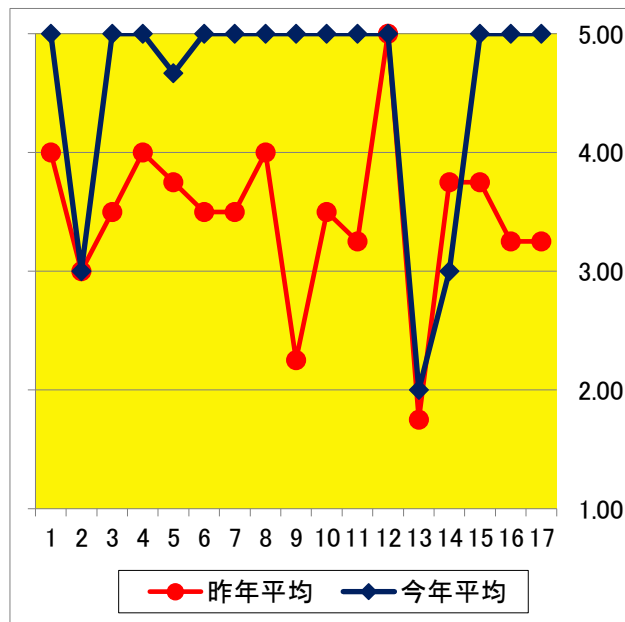
次年度はZOOM形式か対面形式かにかかわらず、今年のやりかた(企業マネジメントと会計の関係に言及しながら、損益分岐点分析や財務諸表の分析を訓練させる)を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

おおむね昨年、今年と講義の方針を理解して、日ごろあまり時間をかけない企業研究は新鮮なようであった。来年の授業の方針を踏襲したい。

科 目	特殊講義(資本市場論)＜資本市場論＞		
配当年次	2	開講時限	春木3
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	3.50	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	3.75	4.67	5	5	4
6	3.50	5.00	5	5	5
7	3.50	5.00	5	5	5
8	4.00	5.00	5	5	5
9	2.25	5.00	5	5	5
10	3.50	5.00	5	5	5
11	3.25	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.75	2.00	1・2・3	3	1
14	3.75	3.00	2・3・4	4	2
15	3.75	5.00	5	5	5
16	3.25	5.00	5	5	5
17	3.25	5.00	5	5	5
回答者数	4	3			



受講生の傾向

受講生3名、うち2名が留学生、3名全員が公認会計士志望者であった。

講義前半のうち6回はオンラインであったが、受講生もオンライン2年目でオンライン環境への習熟もあり、昨年よりも講義に集中しやすい状況になったと推察される。出席率については概ね高かった。

講義では質疑応答を重視し、主体的な態度で自身の見解をまとめ発表できるようになることを到達目標の一つとしていたが、少人数であったことから相互のやり取りが容易に可能となり積極的な講義への参加がされた。また、提出を求めた課題についてもほぼすべて提出がされ、解答内容も丁寧に取り組んだ様子が感じられ、全体として講義への関心の高さが感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努めた。

受講生が少数であったこともあり、講義中の講師と受講生、受講生相互でのやり取りをさらに積極的に行うことができた。また提出された課題の振り返りについても、振り返り内容と受講生各自の解答を受講生全体で共有することができ、課題の理解も一層進んだのではないかと考えられる。

他方で受講生が少数であったことから、より多くの意見の共有や多面的な議論には一定の限界があった点は残念でもある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、オンライン講義であったことにより一部実施が困難であったグループワークについても、できるだけ取り入れるよう進めていきたい。

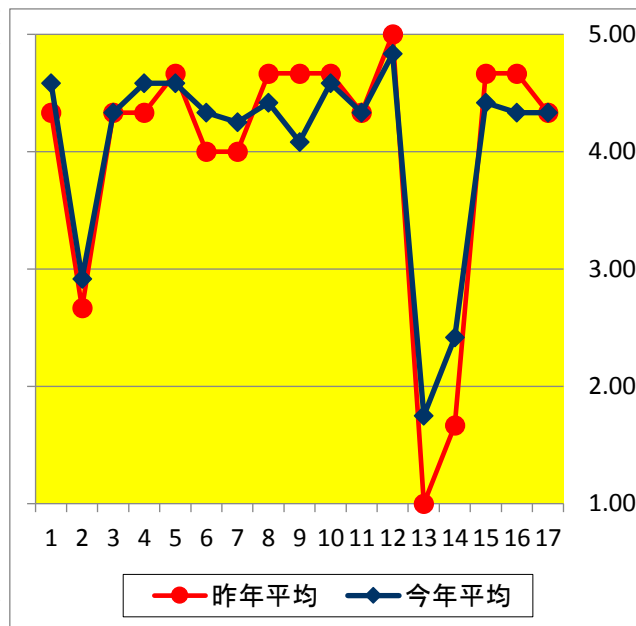
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、少人数での受講の場合は積極的な双方向のやり取り、受講生が一定数となる場合はグループワークをできるだけ取り入れるよう進めていく。

科 目	特殊講義(不正摘発監査論)＜不正摘発監査論＞			
配当年次	2	開講時限	春水2	
受講者数	17	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.58	5	5	4
2	2.67	2.92	3	3	2
3	4.33	4.33	5	5	2
4	4.33	4.58	5	5	4
5	4.67	4.58	5	5	4
6	4.00	4.33	5	5	2
7	4.00	4.25	5	5	2
8	4.67	4.42	5	5	3
9	4.67	4.08	4	5	2
10	4.67	4.58	5	5	4
11	4.33	4.33	5	5	3
12	5.00	4.83	5	5	4
13	1.00	1.75	1	5	1
14	1.67	2.42	2	5	1
15	4.67	4.42	5	5	3
16	4.67	4.33	5	5	3
17	4.33	4.33	4	5	3
回答者数	3	12			



受講生の傾向

昨年度の履修者は全員公認会計士志望者であったが、今年は、公認会計士志望とそうではない受講生との割合が半々ぐらいになっていました。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は全てオンラインによる講義で受講生の反応がわからず進行が一方通行となり大変難しかったが、今年は途中から対面授業に切り替えとなったため、講義中にこちらから質問して意見を発表してもらったり、レポートを提出してもらったりして、双方向の講義となるよう心がけました。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

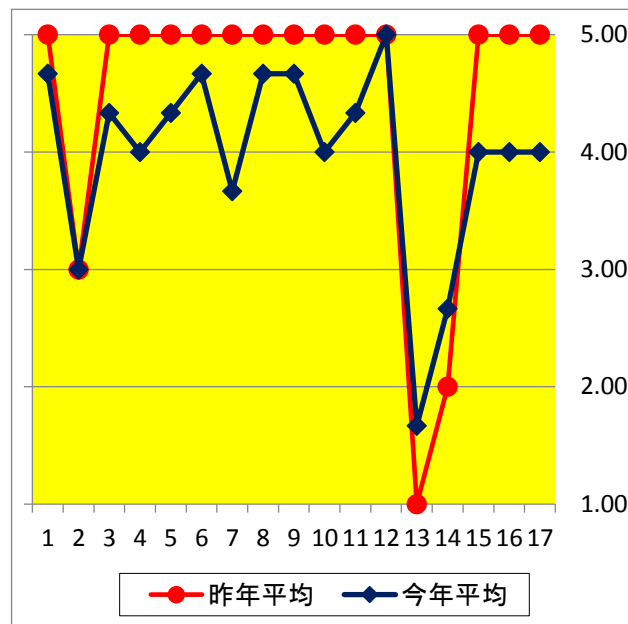
対面講義のためか、受講生の反応が把握できず、また、受講生同士のディスカッション等も行えず、一方通行の講義となってしまったことが反省点です。
受講生が積極的に講義の議論に参加できるように工夫したいと思います。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

こちらからの問いかけに答えてもらう形はできたが、次は受講生同士の議論が活発に行えるようにしていきたいと思います。また、復習と予習の時間が少ないようなので、もう少し課題を出す等、講義の内容の定着を図れるようにしていきます。

科 目	IFRS会計論＜国際会計基準論＞			
配当年次	2	開講時限	春火3	
受講者数	6	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.33	4	5	4
4	5.00	4.00	4	4	4
5	5.00	4.33	4	5	4
6	5.00	4.67	5	5	4
7	5.00	3.67	4	4	3
8	5.00	4.67	5	5	4
9	5.00	4.67	5	5	4
10	5.00	4.00	4	4	4
11	5.00	4.33	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.00	1.67	2	2	1
14	2.00	2.67	2	4	2
15	5.00	4.00	4	4	4
16	5.00	4.00	4	4	4
17	5.00	4.00	4	4	4
回答者数	1	3			



受講生の傾向

冒頭と後半において対面授業、前半はほぼZoomによるオンライン授業であったが、どちらの授業形態でも全員がほぼ全ての講義に出席し、真摯に受講していた。また、特に復習をしっかりと行って、授業内容を理解していたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度はディスカッションを含めていたが、今年度は学期早々にオンライン授業となったことから、次回の講義内容を明確にし、各回で紹介する会計基準の内容をポイントを絞り込んで、理解しやすいように行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

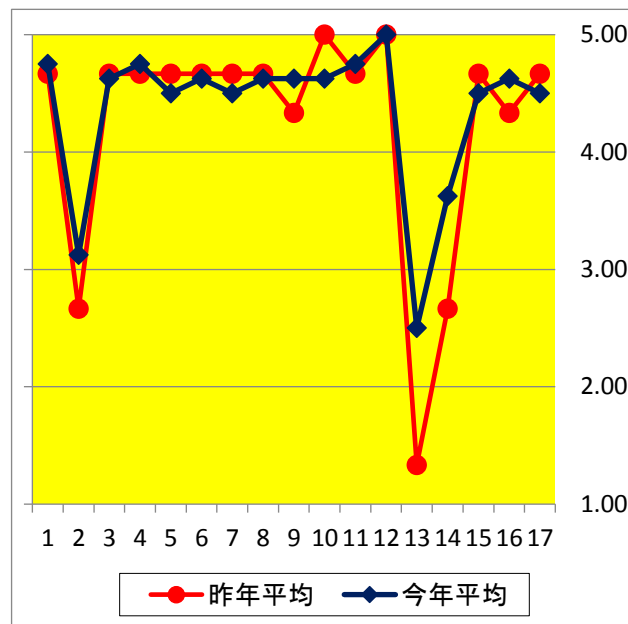
昨年度の担当ではないため、昨年度の「今後の対応」を踏まえることはできないが、一昨年度において、講義中心に力点を変更し、受講生の満足度が下がる傾向があったため、今年度と同様にディスカッションを促し、同時に、各回の講義内容のポイントを明確にし、エッセンスに充分焦点をあて、IFRSの理解がしやすいように調整するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生のうち半数のみのアンケート結果であることを踏まえる必要があるが、受講生の反応が概ね良好であるため、基本的には今年度と同様に重要内容に絞り込み、理解しやすさを維持しようとする。また、日本の会計基準との比較をしつつ、IFRSの特徴もより一層理解できるように工夫を講じるつもりである。

科 目	上級会社法			
配当年次	2	開講時限	春金1	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.75	5	5	4
2	2.67	3.13	3	4	3
3	4.67	4.63	5	5	4
4	4.67	4.75	5	5	4
5	4.67	4.50	4・5	5	4
6	4.67	4.63	5	5	4
7	4.67	4.50	4・5	5	4
8	4.67	4.63	5	5	4
9	4.33	4.63	5	5	4
10	5.00	4.63	5	5	4
11	4.67	4.75	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.33	2.50	1	5	1
14	2.67	3.63	3	5	2
15	4.67	4.50	4・5	5	4
16	4.33	4.63	5	5	4
17	4.67	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	8			



受講生の傾向

今年度は受講生は8名と昨年度の5名（昨年度は私の学術研究員の関係で秋学期）よりは若干増加しているが、もともと授業難易度も高く、公認会計士受験を控えた学生のみが受講する科目ではある。授業難易度は高めではあるが、各受講生が熱心に授業に参加し、やる気を持って取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は秋学期ということもあり全期間対面であった。しかしながら、今年度は春学期でコロナ禍の第5波と重なり、途中の期間がオンラインとなってしまった。そこで、途中のオンライン期間においても対面授業よりも教育効果が下がらないようオンライン授業の利点を生かすように心がけた。また、補助授業（教材）として、自ら授業動画を録画して配信し、適宜見られるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

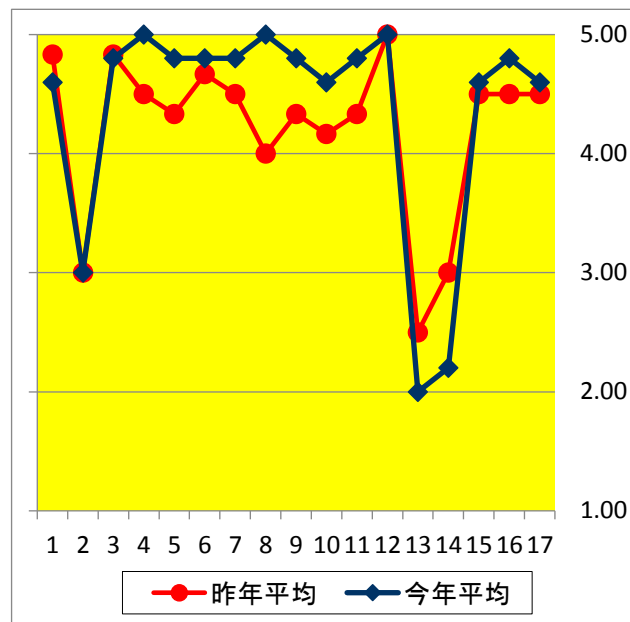
今年度はコロナ禍の中の授業であったが、全員が対面出席可能であったためにその影響は少なかったが、今後このような状況の中で対面以外での授業を余儀なくされる場合においても、柔軟に対応できるよう準備が必要となる。さらには今年度は全受講生のレベルが高かったが、今後はこれにばらつきが出る可能性は十分にある。各学生のレベルを把握したうえで、全受講生が満足できる授業を心掛けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は対面授業とオンライン授業が複合した形態で授業を行ったが、来年度以降はどのような形態で授業が行われても対応できるように準備しておきたい。また、対面授業に戻った場合であっても、オンライン授業の利点を生かして対面授業に応用していきたい。

科 目	国際税務論＜国際税務戦略論＞			
配当年次	2	開講時限	春金3	
受講者数	7	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.60	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.83	4.80	5	5	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.33	4.80	5	5	4
6	4.67	4.80	5	5	4
7	4.50	4.80	5	5	4
8	4.00	5.00	5	5	5
9	4.33	4.80	5	5	4
10	4.17	4.60	5	5	4
11	4.33	4.80	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.50	2.00	1・3	3	1
14	3.00	2.20	2・3	3	1
15	4.50	4.60	5	5	4
16	4.50	4.80	5	5	4
17	4.50	4.60	5	5	4
回答者数	6	5			



受講生の傾向

受講生は1名を除いて、すべて税理士志望者であった。また、いずれも国際租税法の初学者であった。質問No.13及び14の通り、予習と復習の時間が0時間の受講生がいるなど、本年度の受講生は、本科目への積極的な取り組みが十分には見られなかった(成績も全体的に前年度を下回る結果となった)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1に、前年度に続き、例題と解説付きのテキストを採用した。第2に、各講義に関係する判例を課題レポートとして受講生に課した。第3に、国際租税法の理解向上を目指して、所得や税額の具体的な計算問題を解かせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

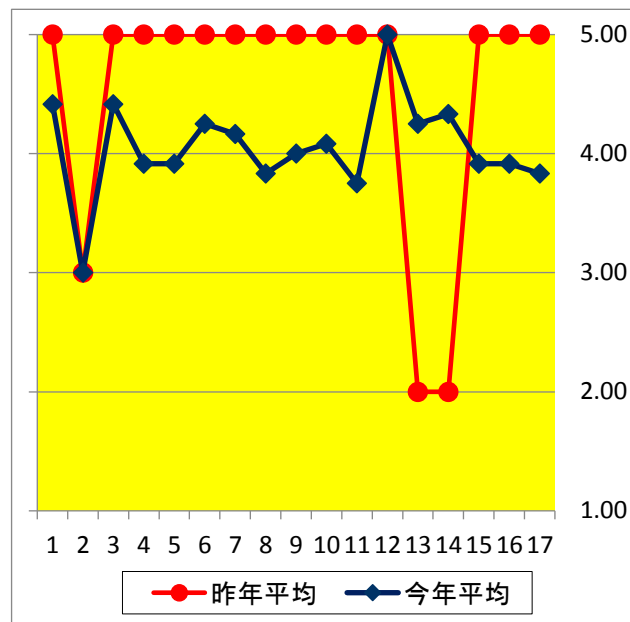
国際租税法では、国内税法に加えて、租税条約の解釈適用が必要となるが、それらの適用順序を苦手とする受講生が多かった。解釈適用の事例問題を多く解かせることによって、受講生が苦手とする解釈適用の課題に対応したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

定期試験の結果から、今年度の受講生は、国際租税法のフレームワーク(国内税法と租税条約の組み合わせ)をきちんと理解できなかったと思われる。次年度は、国際租税法のフレームワークを中心に、講義内容を再検討したい。

科 目	インベストメント論			
配当年次	2	開講時限	春月3	
受講者数	18	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.42	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.42	4	5	4
4	5.00	3.92	4	5	1
5	5.00	3.92	4	5	1
6	5.00	4.25	4	5	4
7	5.00	4.17	4	5	3
8	5.00	3.83	4	5	1
9	5.00	4.00	4	5	1
10	5.00	4.08	4	5	3
11	5.00	3.75	4	5	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	4.25	5	5	2
14	2.00	4.33	5	5	3
15	5.00	3.92	4	5	1
16	5.00	3.92	4	5	1
17	5.00	3.83	4	5	1
回答者数	2	12			



受講生の傾向

非常に熱心に学習する受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、コロナ禍の中、オンライン授業とオンデマンド授業の両方で授業を行った。「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の提示(時間外授業での問題解答・提出)』を取り入れた授業を実施し、毎回課題の提出を行わせた。
多くの受講生はそれを着実に実施しており、高い教育効果があったのではないかと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

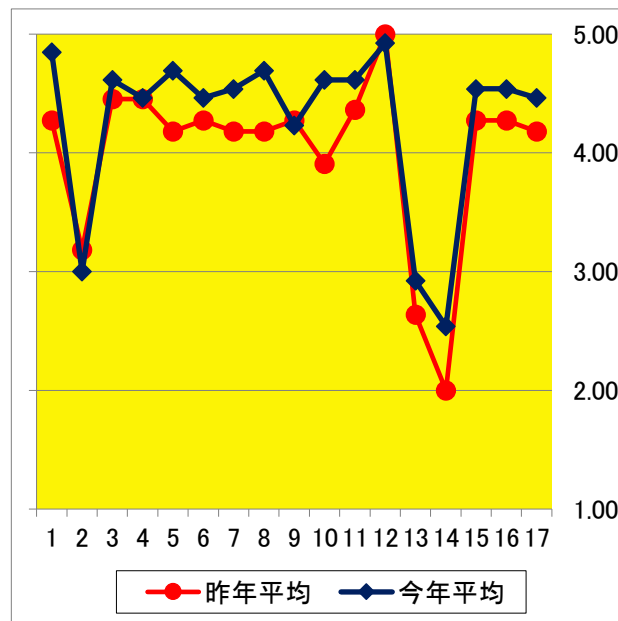
オンデマンド授業、ZOOMによる授業のみならず、対面授業においても、今年度行った「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の提示(⇒時間外授業で問題解答・提出)』を取り入れた授業を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

オンデマンド授業、ZOOMによる授業のみならず、対面授業においても、今年度行った「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の提示(⇒時間外授業で問題解答・提出)』を取り入れた授業を行っていきたい。
さらに、小テスト等も組み合わせて、効果的な授業を行いたい。

科 目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	14	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.27	4.85	5	5	4
2	3.18	3.00	3	4	2
3	4.45	4.62	5	5	4
4	4.45	4.46	4	5	4
5	4.18	4.69	5	5	4
6	4.27	4.46	5	5	3
7	4.18	4.54	5	5	3
8	4.18	4.69	5	5	4
9	4.27	4.23	4・5	5	1
10	3.91	4.62	5	5	4
11	4.36	4.62	5	5	4
12	5.00	4.92	5	5	4
13	2.64	2.92	2	5	1
14	2.00	2.54	1・2	5	1
15	4.27	4.54	5	5	4
16	4.27	4.54	5	5	4
17	4.18	4.46	4	5	4
回答者数	11	13			



受講生の傾向

「1:授業内容が講義要項に即したものになっているか」が0.5ポイントほど上昇した。
 また、「5:話し方、説明方法」「7:PCの使い方」「8:質問への対応」が0.5ポイントほど上昇した。
 さらに、「10:クラスの規模」が0.5ポイント以上上昇した。
 「1」は、当初からリモート授業を想定した要項へ変更していたためと考えられる。「5、7、8」は、意識的に授業スピードを抑制し、質問対応も行ったためと考える。「10」は、来学への切り替えも進み、クラス同士のコミュニケーションも一定程度進んだためと考える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業スピードを抑制するとともに、受講生の会計知識をより日商簿記2級レベルである点を意識して行った。税効果や固定資産減損、企業結合会計自体の説明に時間を使った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

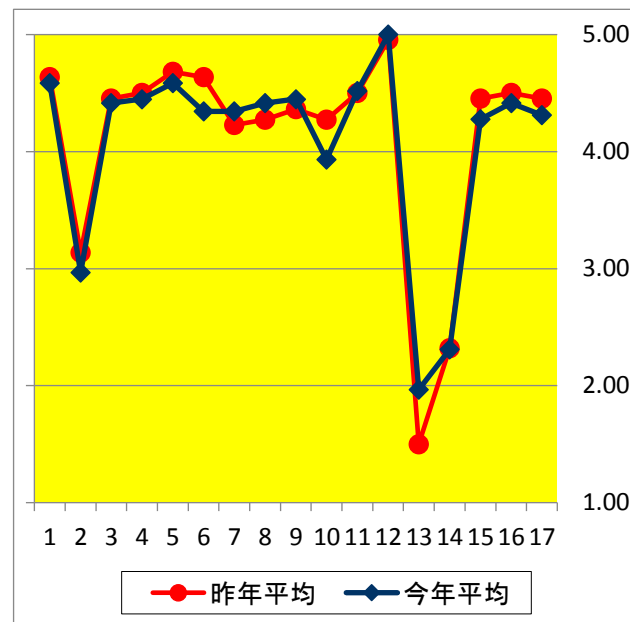
リモート受講生もいる中で引き続きグループディスカッションは控えているが、配布資料を削減し、質問時間を十分にとるように努めたい。説明する会計基準の論点も、消化不良にならないよう、よりポイントを絞った内容に変え、時間的な余裕をもって理解度をアップさせたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、グループディスカッションは控えつつ、配布資料を削減し、質問時間を十分にとるように努めたい。説明する会計基準の論点も、消化不良にならないよう、よりポイントを絞った内容に変え、時間的な余裕をもって理解度をアップさせた上で、事例紹介や、院生発表へのフィードバックを進めたい。

科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	46	回答者数	29

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.59	5	5	4
2	3.14	2.97	3	4	2
3	4.45	4.41	4	5	3
4	4.50	4.45	5	5	3
5	4.68	4.59	5	5	3
6	4.64	4.34	5	5	1
7	4.23	4.34	5	5	2
8	4.27	4.41	5	5	3
9	4.36	4.45	4・5	5	3
10	4.27	3.93	5	5	2
11	4.50	4.52	5	5	3
12	4.95	5.00	5	5	5
13	1.50	1.97	2	4	1
14	2.32	2.31	2	4	1
15	4.45	4.28	4	5	3
16	4.50	4.41	4	5	4
17	4.45	4.31	4	5	3
回答者数	22	29			



受講生の傾向

入学したての1年生がほとんどを占めており、経理実務の前提である簿記の知識にばらつきが感じられました。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習よりも定着を図ることが重要と思い、なるべく課題を多く出し、提出させることにしました。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

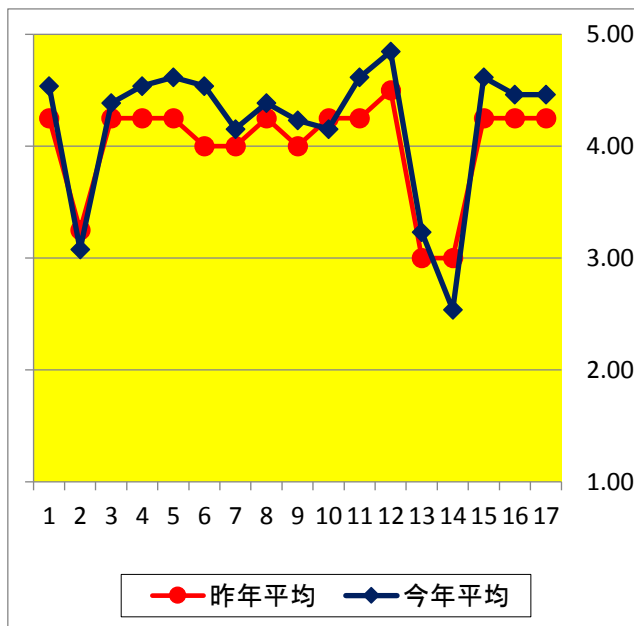
各講義に関係する簿記の知識の予習はしてきてほしかったので、毎回次回講義の為に予習すべき簿記の知識を明示しようと思います。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

まだ、予習、復習といった受講生自身の勉強時間が少ないようなので、課題等の内容、出し方を工夫しようと思います。

科 目	論文指導(導入)(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	春金5	
受講者数	13	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.54	5	5	4
2	3.25	3.08	3	4	3
3	4.25	4.38	4・5	5	3
4	4.25	4.54	5	5	3
5	4.25	4.62	5	5	2
6	4.00	4.54	5	5	4
7	4.00	4.15	4	5	3
8	4.25	4.38	5	5	2
9	4.00	4.23	4	5	3
10	4.25	4.15	5	5	2
11	4.25	4.62	5	5	4
12	4.50	4.85	5	5	4
13	3.00	3.23	3	5	2
14	3.00	2.54	2	5	1
15	4.25	4.62	5	5	4
16	4.25	4.46	4	5	4
17	4.25	4.46	4	5	4
回答者数	4	13			



受講生の傾向

受講生は全て、税理士志望者であった。受講生は真面目に授業に取り組んではいたが、成績面では二極化していた。ただ、前年度までの税務経験者(社会人)と初学者(新卒者)という構図ではなく、受講生の論理構成力の違いによるものと推測される。これは、受講生間の質疑応答の状況から認識したものである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1に、前年度と同様、所得税法の基本書を輪読させた。第2に、質疑応答を活発化させるために、報告者以外の受講生を2人～3人ずつのペアにし、ペア単位で報告者に質問を行わせた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

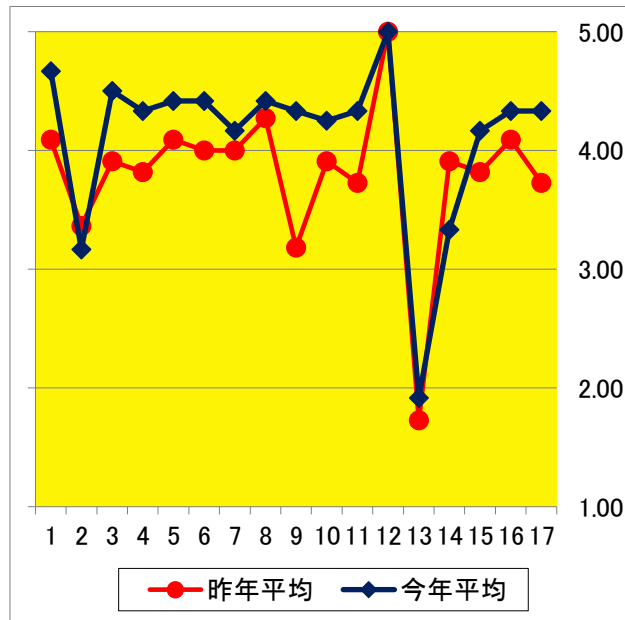
前年度に採用したペア方式(報告者以外の受講生を2人～3人ずつのペアにし、ペア単位で報告者に質問を行わせる)は、Zoomであっても受講生による質疑応答を活発化させることに貢献した。従って、次年度もペア方式を採用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質疑応答に窮する理由の1つに、所得税法の条文を読まないまま、レジュメを作成していることが確認できた。受講生に対して、条文を必ず付してレジュメを作成すること、また、条文を根拠にした質疑応答を行うようにすることを(出来るようになるまで)繰り返し指導していきたい。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	春木2	
受講者数	13	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.09	4.67	5	5	4
2	3.36	3.17	3	5	2
3	3.91	4.50	4・5	5	4
4	3.82	4.33	4	5	3
5	4.09	4.42	4	5	4
6	4.00	4.42	4	5	4
7	4.00	4.17	4・5	5	2
8	4.27	4.42	4	5	4
9	3.18	4.33	4	5	3
10	3.91	4.25	4	5	4
11	3.73	4.33	4	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.73	1.92	1・2	5	1
14	3.91	3.33	2・4	5	2
15	3.82	4.17	4	5	3
16	4.09	4.33	4	5	3
17	3.73	4.33	4	5	3
回答者数	11	12			



受講生の傾向

受講生13名の内訳は公認会計士志望者9名、企業人志望者1名、監査法人勤務志望1名、研究者志望者1名など。留学生は4名でCPA志望者2名、監査法人勤務志望者が1名などであった。
講義前半のうち6回はオンラインであったが、受講生もオンライン2年目でオンライン環境への習熟もあり、昨年よりも講義に集中しやすい状況になったと推察される。出席率については概ね高かった。
講義内容に関する既学習内容について幅があり、留学生の一部については語学力が壁となって講義、課題演習の取り組みとともに一部苦労している印象を受けた。
講義では質疑応答を重視し、主体的な態度で自身の見解をまとめ発表できるようになることを到達目標の一つとしていたが、既学習内容についての幅もあってか、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれも見受けられた。ただ、提出を求めた課題についてもほぼすべて提出がされ、解答内容も丁寧に取り組んだ様子も感じられ、全体としては講義への関心の高さが感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の質疑について、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいることを想定し、講義形式では全体の進捗管理が難しくなるため、講義中に班分けしたうえでグループワークと発表の機会を何度か設け、班分けにおいて既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めた。本年も講義のうち6回がオンラインとなり、当初予定からは一部グループワークに支障もあったが、グループワークに関する受講生の満足度はやはり高かったように感じた。
講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努め、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。
また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、オンライン講義であったことにより一部実施が困難であったグループワークについても、できるだけ取り入れるよう進めていきたい。

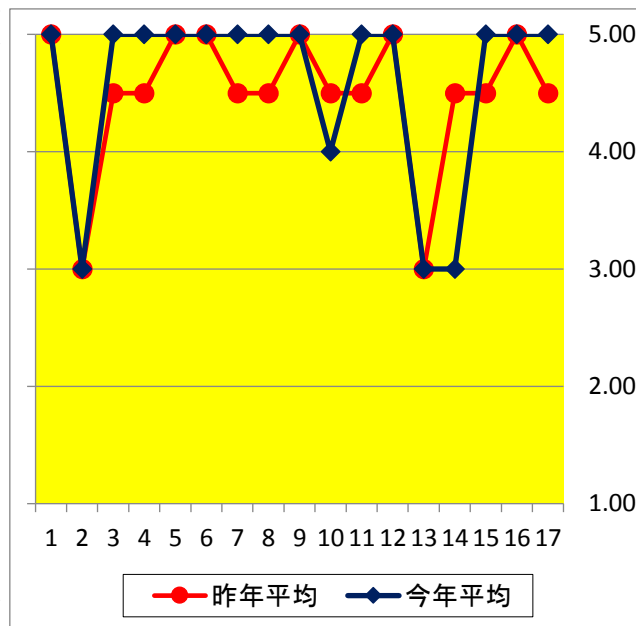
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。
また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応する。グループワークについてもできるだけ取り入れ、資料の量が多い場合などは事前提示などにより各人の必要な準備時間、読込み時間に柔軟に対応できるようにすることも検討する。

Ⅲ-(2). 2021 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋金5	
受講者数	2	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	4.50	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.50	4.00	4	4	4
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.00	3	3	3
14	4.50	3.00	3	3	3
15	4.50	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生は、未履修の学生と入学前履修の学生であった。受講当初は簿記の習熟度は低い状況であったが、受講態度は真面目で意欲的であり、授業時間外にも積極的に簿記の勉強をしている様子であった。次第に要領よく問題を解けるようになり、急速に実力を高めていった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。とくに、取引の仕訳は、パターンとして「覚える」のではなく、「考える」ように指導した。また、上級レベルの内容を理解する上で重要な論点は、優先的に取り扱った。講義中は問題演習に重点をおき、定期的にミニテストも行い、個々人の習熟度に応じて個別に指導するなど、全員の理解を確認して回った。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

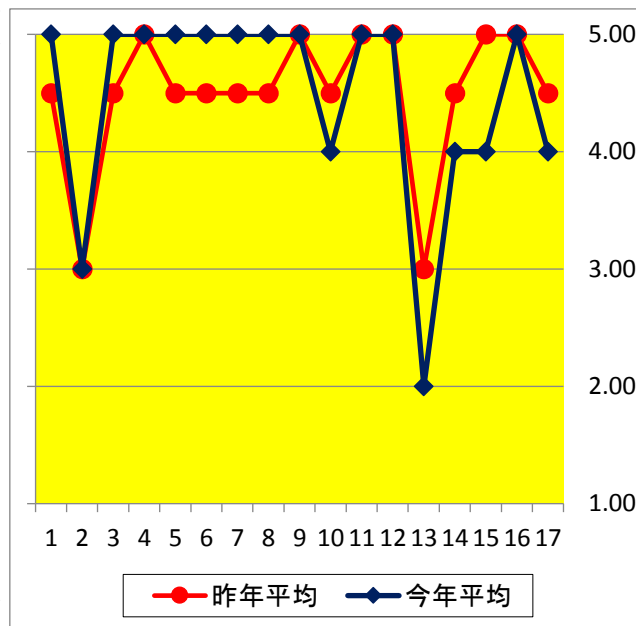
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

	中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	3	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.50	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.50	4.00	4	4	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	2.00	2	2	2
14	4.50	4.00	4	4	4
15	5.00	4.00	4	4	4
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.50	4.00	4	4	4
回答者数	2	1			



受講生の傾向

別科生1人だけが講義に出席していた。
真面目に取り組んでくれた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
問題演習の機会を増やした。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

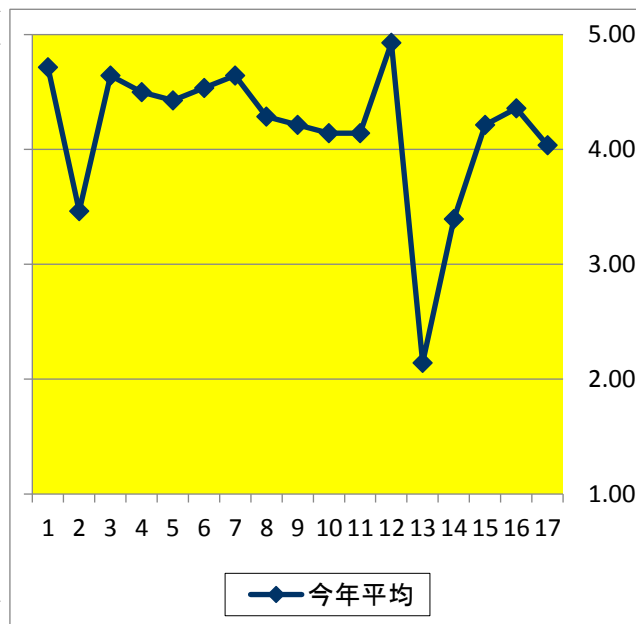
進度が遅いという指摘があるため、次年度は進度を早くし進めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習をしていないとのアンケート結果だが、復習時間は十分に確保されているようなので、これは問題とは考えない。
次年度も復習時間を確保してもらえよう、小テストをこまめに実施していく。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	40	回答者数	28	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.71	5	5	3
2	—	3.46	3	5	3
3	—	4.64	5	5	3
4	—	4.50	5	5	3
5	—	4.43	5	5	3
6	—	4.54	5	5	3
7	—	4.64	5	5	4
8	—	4.29	5	5	2
9	—	4.21	4	5	2
10	—	4.14	4	5	2
11	—	4.14	4	5	2
12	—	4.93	5	5	4
13	—	2.14	1	5	1
14	—	3.39	3・4	5	1
15	—	4.21	4	5	3
16	—	4.36	4	5	3
17	—	4.04	4	5	2
回答者数	—	28			



受講生の傾向

受講生は、主に未履修の学生と再履修の学生であった。再履修の学生のなかには、春学期の遠隔授業（Zoom）で実力が発揮できなかった学生や、モチベーションを喪失してしまった学生もいた。今学期は、春学期とは異なり対面授業であったため、気軽に質問できる状況であり、実力を高めようとする受講生もいた。一方で、基礎力に欠ける受講生も散見された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、「覚えて解く」（暗記）ではなく、「考えて解く」（理解）を意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。また、複雑で細かな論点よりも、基本的で重要な論点を優先的に取り上げるようにした。問題演習の時間には、個々人の習熟度に応じて個別に指導するなど、できるかぎり全員の理解を確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

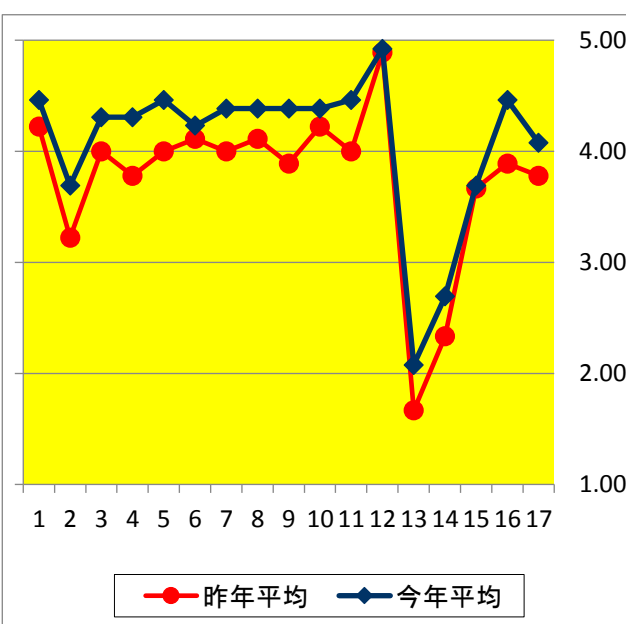
該当なし（昨年度未実施・担任者変更）

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期（遠隔授業）のアンケート結果と比べると、今学期の対面授業の方が概ね高いポイントを得ており、受講生のニーズに合致していると考えてよい。全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。ただ、今学期は受講者数が多く、少人数クラス編成とはいえない人数であった。適正なクラス規模で、受講生の全員に対して丁寧な指導ができるようにしたい。

科目	上級財務会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月1
受講者数	26	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.46	4	5	4
2	3.22	3.69	3	5	3
3	4.00	4.31	5	5	3
4	3.78	4.31	5	5	3
5	4.00	4.46	5	5	3
6	4.11	4.23	4	5	3
7	4.00	4.38	4・5	5	3
8	4.11	4.38	5	5	3
9	3.89	4.38	4・5	5	3
10	4.22	4.38	4・5	5	3
11	4.00	4.46	4	5	4
12	4.89	4.92	5	5	4
13	1.67	2.08	1	5	1
14	2.33	2.69	2・3	5	1
15	3.67	3.69	4	5	1
16	3.89	4.46	5	5	3
17	3.78	4.08	4・5	5	2
回答者数	9	13			



受講生の傾向

コロナウイルス感染症対策があり、冒頭3回はオンラインでの講義でそれ以後は対面講義で実施し、小テストも教室での実施ができています。回答者数が受講者数の半分から推測できることと関係すると思うが出席が芳しくない受講生が散見された。とはいえ、概ね1回欠席ないし全回出席で真摯に受講していたと思われる。これに伴い、予習・復習の時間も昨年度より多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度において予習・復習の時間が減っていたため、小テストについては関大LMSでの実施をとりやめ、教室でペーパーでの実施に戻している。また、IFRSに関する授業内容では理解度が下がる傾向にあったため、全体像の把握がしやすいように、毎回講義終了時直前に講義内容のポイントをまとめて概説し、次回講義の際には前回のポイントと当該回の講義とのつながりを説明した上で授業を開始している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

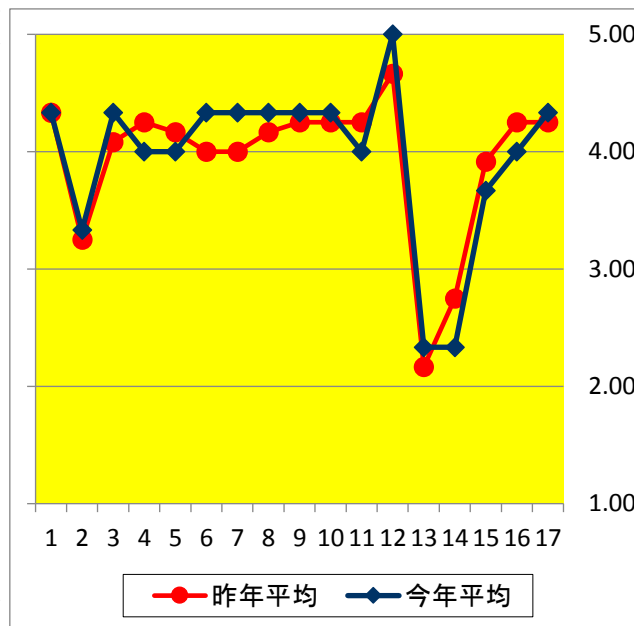
昨年度の担当ではないため、「今後の対応」を踏まえることはできないが、講義時間確保のため、小テストと中間試験については関大LMSで実施するつもりであるが、予習・復習時間が減る傾向や遅刻が散見される傾向を是正する措置を別途講じるつもりである。その他については、例年どおりの方向性を変更する必要はないと思われ、補完的に受講生の学習意欲を高めるよう講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より正確な理解を促すよう工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

小テストを教室でペーパーで実施することで予習・復習の時間を増加させることができたと推測されるため、小テストについては同様の方法で行うつもりである。最終試験の結果、後半になるほど小テストの結果が悪化する部分があり、より制度比較に基づく理解を深めやすいように講義のポイントや前回までの講義とのつながりを概説するだけでなく、比較という点でもポイントや重要な相違点をまとめて概説し、より正確で深い理解を促すつもりである。

科 目	上級管理会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	29	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.33	4	5	4
2	3.25	3.33	3	4	3
3	4.08	4.33	4	5	4
4	4.25	4.00	3・4・5	5	3
5	4.17	4.00	3・4・5	5	3
6	4.00	4.33	4	5	4
7	4.00	4.33	4	5	4
8	4.17	4.33	4	5	4
9	4.25	4.33	4	5	4
10	4.25	4.33	4	5	4
11	4.25	4.00	3・4・5	5	3
12	4.67	5.00	5	5	5
13	2.17	2.33	1・2・4	4	1
14	2.75	2.33	1・2・4	4	1
15	3.92	3.67	3	5	3
16	4.25	4.00	3・4・5	5	3
17	4.25	4.33	4	5	4
回答者数	12	3			



受講生の傾向

本講義は必修科目として位置付けられる基本科目である。新型コロナウイルス問題に対応するために、第1回～第3回は遠隔講義を行ったが、第4回以降は対面講義を実施した。多くの受講生は真面目に授業に出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は全体として評点が向上していたために、本年度も昨年の取り組みを継続することが望ましいと考えた。そこで、講義を実施する際には、受講生にとって分からない点を丁寧に解説するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

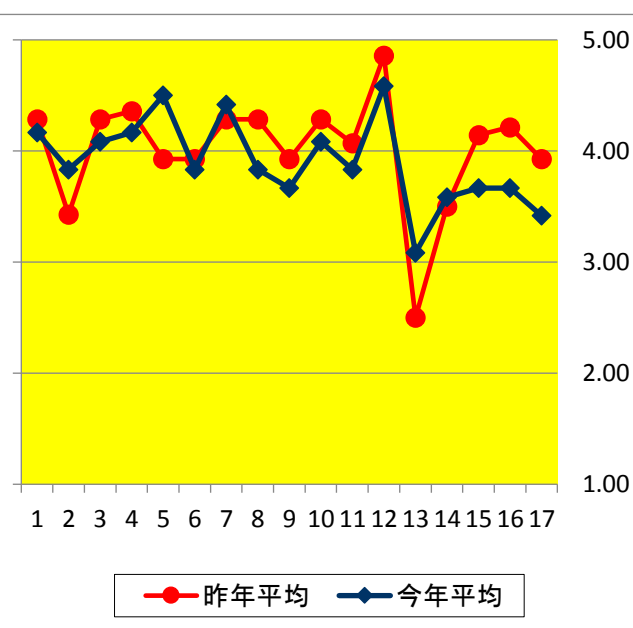
機材の利用方法、および受講生からの質問など、一部の項目で評点が低下していたが、全体としては評点が向上していた。そのため、現状の取り組みを継続したいと考えている。他方で、新型コロナウイルス問題に伴って、受講生との直接的なコンタクトが困難になっているため、質問対応等については今後の課題として検討が必要と考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

教員の声の大きさなど一部の項目で評点が低下していたが、全体としては多くの点で評点が向上したと考えられる。そのため、今年度に引き続き、次年度も同様の取り組みを継続することが必要だと考えている。

科 目	監査制度論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋月3	
受講者数	25	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4.17	4	5	3
2	3.43	3.83	4	5	3
3	4.29	4.08	5	5	2
4	4.36	4.17	5	5	2
5	3.93	4.50	5	5	3
6	3.93	3.83	5	5	1
7	4.29	4.42	5	5	3
8	4.29	3.83	4	5	1
9	3.93	3.67	4	5	2
10	4.29	4.08	4	5	2
11	4.07	3.83	4・5	5	1
12	4.86	4.58	5	5	1
13	2.50	3.08	2	5	2
14	3.50	3.58	5	5	2
15	4.14	3.67	5	5	1
16	4.21	3.67	5	5	1
17	3.93	3.42	3・4・5	5	1
回答者数	14	12			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は80%以上となっており、相対的に高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。但し、受講者数に対する回答者の割合が低いこと、ならびに最頻値と平均値の差を考慮する必要がある。

しかし昨年度の秋学期の評価に比べると全体的に評価が低下している。特に質問への対応(項目8)、宿題と小テスト(項目9)、クラス規模(項目10)、満足度(項目11)といったほぼ全ての項目において、昨年実績より低下している。

一方、課題予習(項目13)と復習(項目14)は若干改善している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂後の報告基準を含む監査基準及び監査実務指針を反映した網羅的かつ体系的なスライドに基づき講義資料を作成し、LMSを通して事前に配布した。これら講義資料の最後に、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列举した。

講義が2回終了する毎に講義の理解度を確認する目的と復習を動機付けるために、小テストを実施し翌週までにそれらを添削しコメントを付記した上で各個に返却した。返却に当たっては、返却時の講義の冒頭で添削上のポイントを解説した。

講義2回→復習課題実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

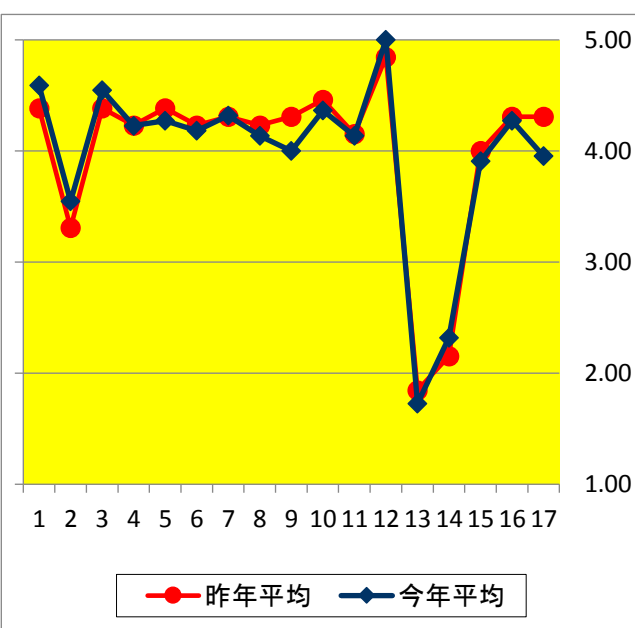
コロナ禍の影響を受けた授業が続くため、講義形式が対面とオンライン、或いはオンラインのみでの形態となる場合、どうしても一方通行の講義となることを前提に小テスト等による教育効果の確認方法を考えないといけない。特に添削済み小テスト解答用紙の見直しを促すような措置を講じることにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義形式が全面的に対面となったため、一方通行の講義とならないように小テスト等による教育効果の確認方法を考え、添削済み小テスト解答用紙の見直しを促すような措置を講じることにしたい。

科 目	監査基準論<監査基準>(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	27	回答者数	22	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.59	5	5	4
2	3.31	3.55	3	5	2
3	4.38	4.55	5	5	4
4	4.23	4.23	4	5	3
5	4.38	4.27	4	5	3
6	4.23	4.18	4	5	3
7	4.31	4.32	4	5	3
8	4.23	4.14	4	5	3
9	4.31	4.00	4	5	2
10	4.46	4.36	4	5	3
11	4.15	4.14	4	5	2
12	4.85	5.00	5	5	5
13	1.85	1.73	1	5	1
14	2.15	2.32	2	5	1
15	4.00	3.91	4	5	1
16	4.31	4.27	4	5	3
17	4.31	3.95	4	5	2
回答者数	13	22			



受講生の傾向

前回から大きな変動はないが、質問No.9の「宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。」が、「4. そう思う」「5. 強くそう思う」の間の4.31から4.0へ0.31ポイント減少している。
また、質問No.17の「あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。」が、「3. どちらともいえない」「4. そう思う」「5. 強くそう思う」の0.36ポイント減少している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の最後に質問の機会を設けられなかった。特に、当日の授業を受けた小設問を次回授業の冒頭から各授業の最後に持ってきた事で、小設問の解説の時間が駆け足になってしまったケースがあり、また、質問の機会も設けられなかった点は、改善点と認識する。提示資料は削減できたが、授業スピードを落としたため、最後が駆け足になり授業満足度も減少したと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

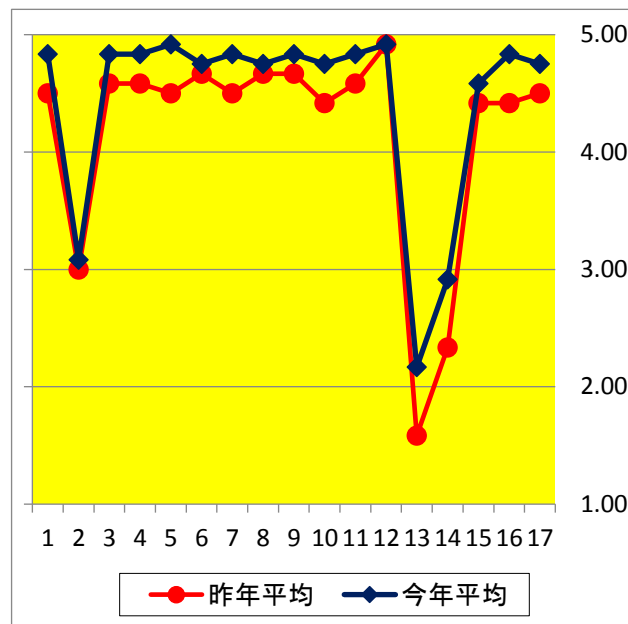
授業スピードや話す速度は引き続き抑制する。
提示資料もより削減する。
授業の最後に質問の時間を取りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き授業スピードは抑制する。
提示資料も継続して抑制する。
各授業最後の小設問には十分に時間を確保し、質問の時間を確保する。

科 目	企業法(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木1	
受講者数	21	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.83	5	5	4
2	3.00	3.08	3	4	3
3	4.58	4.83	5	5	4
4	4.58	4.83	5	5	4
5	4.50	4.92	5	5	4
6	4.67	4.75	5	5	4
7	4.50	4.83	5	5	4
8	4.67	4.75	5	5	4
9	4.67	4.83	5	5	4
10	4.42	4.75	5	5	4
11	4.58	4.83	5	5	4
12	4.92	4.92	5	5	4
13	1.58	2.17	2	5	1
14	2.33	2.92	3	5	1
15	4.42	4.58	5	5	3
16	4.42	4.83	5	5	4
17	4.50	4.75	5	5	4
回答者数	12	12			



受講生の傾向

今年度の受講生は21名であって、昨年度よりも若干減少している。これは春学期に多くの学生が企業法を受講したためと思われる。授業に関しては、ほとんどの学生が毎回出席しており、授業には熱心かつまじめに取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は授業による指導の中では、企業法に関する知識の習得はもちろんであるが、得られた知識を前提に企業法の論述ができる学力を習得できるように心がけた。具体的には、法的の文章の組み立て方や文章表現の仕方などを教授し、実際に小テストの練習問題の中で実践および添削を行うことで、論述できる学力を身につけてもらうようにした。また、企業法には基礎講座が別途開講されており、そこでも論文構成の練習など、企業法の授業内では行うことのできない内容を扱うなどした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

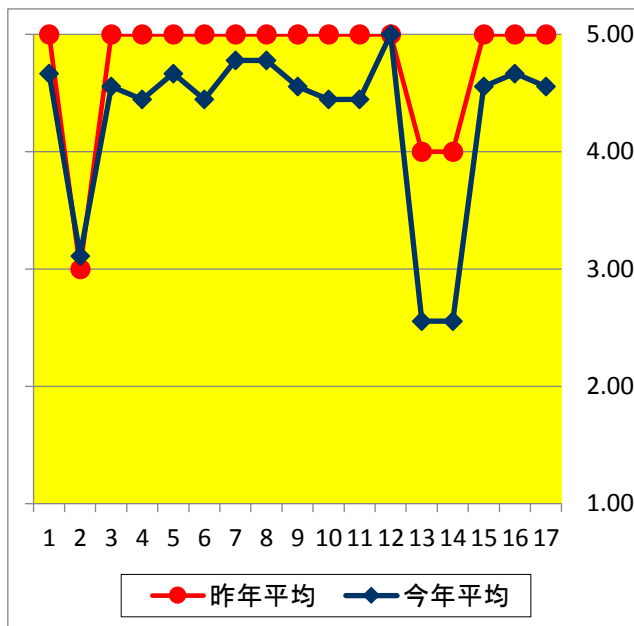
今年度はコロナ禍という非常に特殊な状況であったと思う。しかしながら、今後は収束するのか、またどのような状況になるかわからないので、今後も対面授業に参加できない学生についての配慮というものに取り組む必要がある。特に、対面授業参加者との公平さは担保していかなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上でも述べたことであるが、授業が企業法の知識の習得にとどまらないよう工夫していきたい。授業の中では、小テストとして短答式と論述式を扱っているが、そこで単なる習得した知識の確認にとどまらず、それを応用したりその内容を自ら論述できる能力を身につけることができるように心がけたい。また、企業法基礎講座と内容は並行しているので、うまく組み合わせることで、相乗効果が出るようにもしたい。

科目	会計専門職業倫理(B)			
配当年次	2	開講時限	秋水1	
受講者数	11	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.11	3	4	3
3	5.00	4.56	5	5	4
4	5.00	4.44	4	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	5.00	4.44	5	5	3
7	5.00	4.78	5	5	4
8	5.00	4.78	5	5	4
9	5.00	4.56	5	5	4
10	5.00	4.44	4	5	4
11	5.00	4.44	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	2.56	2	5	1
14	4.00	2.56	1・3	5	1
15	5.00	4.56	5	5	4
16	5.00	4.67	5	5	4
17	5.00	4.56	5	5	4
回答者数	2	9			



受講生の傾向

受講者数は11名程度であったが、入国できない留学生はオンラインでの参加となった。人数は予想通りであったが、学力のばらつきがかなりあったこと、日本語の理解が十分でない留学生も含まれていて進行には配慮が必要であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記のように学生の学力のばらつきが大きかったため、講義内容は若干易しいものとして理解を促すようにした。また少人数でもグループワークを実施することにより理解を深めさせようとした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

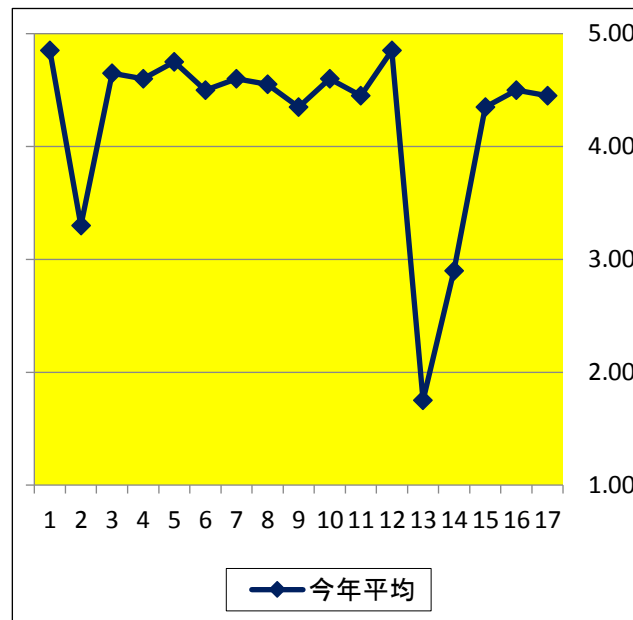
2021年秋学期は10名程度の受講生を予定している。基本的な講義内容については春学期とのレベルを合わせ、事例研究等応用分野については受講生の希望も取り入れ、授業の構成を考えていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生のレベルによって、グループワークが特定の受講生の負担になってしまう結果が見られ反省した。今後はグループの編成等(人数、レベルの差のある受講生の組み合わせ)に配慮をしたい。

科 目	財表作成簿記論＜財表作成簿記＞			
配当年次	1	開講時限	秋木2	
受講者数	25	回答者数	20	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.85	5	5	4
2	—	3.30	3	4	3
3	—	4.65	5	5	4
4	—	4.60	5	5	3
5	—	4.75	5	5	4
6	—	4.50	5	5	3
7	—	4.60	5	5	3
8	—	4.55	5	5	3
9	—	4.35	4	5	4
10	—	4.60	5	5	4
11	—	4.45	5	5	3
12	—	4.85	5	5	4
13	—	1.75	1	4	1
14	—	2.90	3	5	1
15	—	4.35	4・5	5	3
16	—	4.50	5	5	3
17	—	4.45	5	5	3
回答者数	—	20			



受講生の傾向

受講生は、資格試験の勉強に取り組んでいる学生や、春学期の「上級簿記論」で優秀な成績を収めた学生など、全体的に簿記の習熟度が高い状況であった。ただ、連結会計については、計算問題としてテクニカルに解くことはできるが、仕訳することは難しい様子であった。しかし、向上心の高い受講生が多く、初めは抵抗感をもっていた学生も、講義が進むに連れて触発され、この機会に連結会計の理解を深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

複雑で細かな論点よりも、基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるようにした。とくに連結会計は、簿記のプロセスとして仕訳を中心に理解するように指導し、そのように講義資料も工夫した。問題演習の時間には、個々人の習熟度に応じて個別に指導するなど、全員の理解を確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

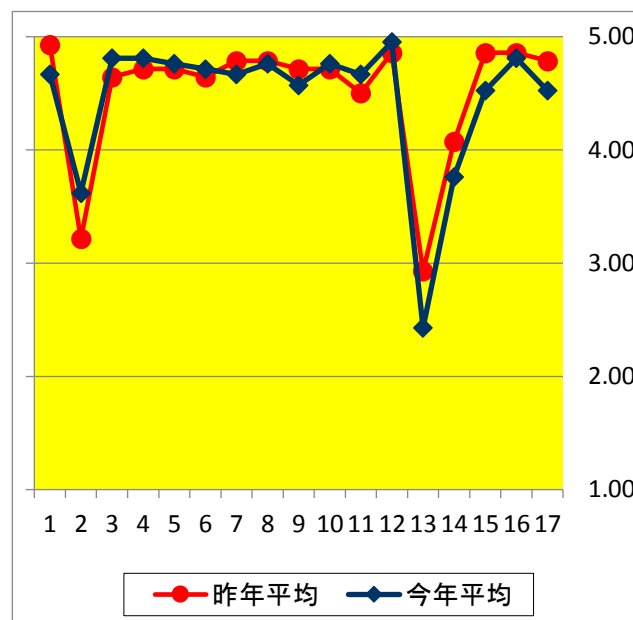
該当なし(昨年度未実施・担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科 目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	秋金2	
受講者数	24	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.93	4.67	5	5	4
2	3.21	3.62	3	5	2
3	4.64	4.81	5	5	4
4	4.71	4.81	5	5	4
5	4.71	4.76	5	5	4
6	4.64	4.71	5	5	4
7	4.79	4.67	5	5	4
8	4.79	4.76	5	5	4
9	4.71	4.57	5	5	3
10	4.71	4.76	5	5	4
11	4.50	4.67	5	5	4
12	4.86	4.95	5	5	4
13	2.93	2.43	1	5	1
14	4.07	3.76	5	5	1
15	4.86	4.52	5	5	1
16	4.86	4.81	5	5	4
17	4.79	4.52	5	5	3
回答者数	14	21			



受講生の傾向

本科目では改訂直後の報告基準を反映した講義資料を作成し、LMSを通して事前に配布した。受講生の出席状況(項目12)は昨年と同様にほぼ90%を確保し極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。

予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も昨年度より若干、悪化しているが、全ての項目で昨年実績並を確保している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に引き続き、今年度も監査報告に関連する監査基準改訂がなされたため、該当箇所に関する講義資料を新規に作成しLMSで配布するとともに、重要論点とともに解説を加えた。当該講義資料の最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列举した。

講義が2回終了する毎に、2回分の理解度を確認するための記述式小テストを隔週で実施し、添削後にコメントを付して返却するとともに、添削時のポイントを全員に配布し解説を行った。返却時に論点の講評を行うことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

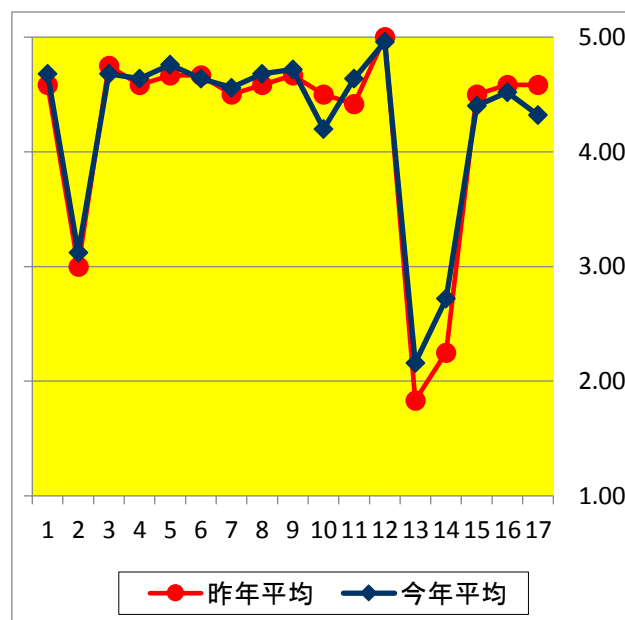
今年度の実績を踏まえ、講義→復習(小テスト)→添削→返却・講評→小テストの見直しという好循環を可能とするよう引き続き努力する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対面を前提にして出席者のモラルを高めるべく講義→復習(小テスト)→添削→返却・講評を行い、さらに小テストの見直しを動機付けるような措置を講じるよう努力する。

科 目	会社法			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	40	回答者数	25	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.68	5	5	4
2	3.00	3.12	3	4	3
3	4.75	4.68	5	5	4
4	4.58	4.64	5	5	4
5	4.67	4.76	5	5	4
6	4.67	4.64	5	5	3
7	4.50	4.56	5	5	3
8	4.58	4.68	5	5	4
9	4.67	4.72	5	5	4
10	4.50	4.20	4	5	2
11	4.42	4.64	5	5	4
12	5.00	4.96	5	5	4
13	1.83	2.16	2	5	1
14	2.25	2.72	3	5	1
15	4.50	4.40	4	5	3
16	4.58	4.52	5	5	4
17	4.58	4.32	4	5	1
回答者数	12	25			



受講生の傾向

今年度の受講生は40名と昨年度の26名と比較すると大幅に増加している。受講生も多くさらにはコロナ禍という状況もあり、授業に欠席する学生も見られたが、おおむね出席率はよかったように思う。また、出席している学生については、授業にまじめに取り組んでおり、小テストの結果等を確認してもしっかりと予習と復習をして勉強していることがうかがえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会社法という授業は、企業法の延長にある科目であって両科目の連携が重要となる。企業法を春学期に受講した学生はその流れで会社法を受講するが、そこでは企業法で学習した内容を復習しながら授業を受ける必要がある。また、秋学期に企業法を受講する学生は会社法と同時受講となるが、両授業のつながりを意識しながら受講する必要がある。これについては、昨年度は時間割上の難しさがあったが(会社法1限、企業法4限)、今年度はその点が解消され(企業法1限、会社法4限)、企業法で基礎を学んだうえで、会社法で発展的な内容を学ぶことができるということになった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

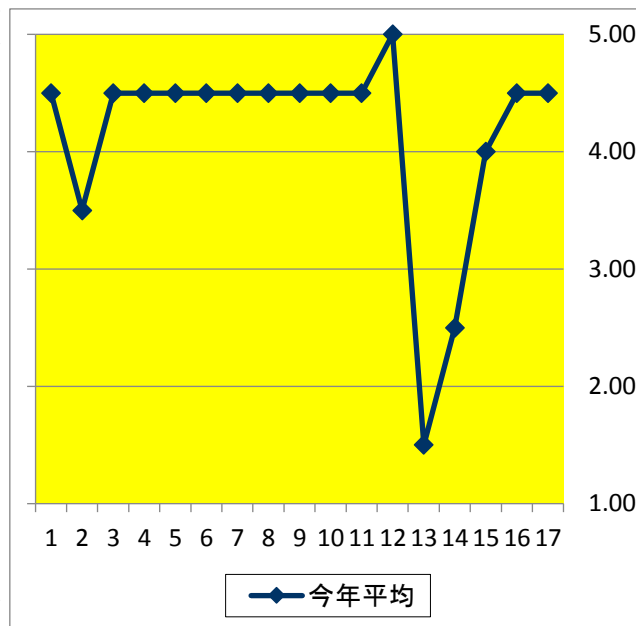
会社法と企業法とのつながりが重要であって、企業法(秋学期)の授業進度が会社法の授業内容に大きく影響することとなる。企業法(秋学期)の進度と会社法の授業進度がうまく一致すれば、学習効果も大いに上がると思うので、この点を強く配慮したい。また、そういう意味では授業の順序としては企業法を学習したのちに会社法を学習するべきであるので、時間割上の工夫もするようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法と会社法の授業の連携を意識しながら、受講生には授業を聞いてもらうよう工夫をしていくことは継続して行っていく。その他、企業法に加えて、会社法でも基礎講座を実施している。会社法の学習内容は企業法よりも内容が発展的であるため、学生の理解をアシストし、かつ学生の応用力および論述能力を向上させて行くためにも、より効果的な基礎講座の活用を模索していきたい。

科 目	特殊講義(企業情報の読み方と使い方)		
配当年次	1	開講時限	秋前火6～7
受講者数	7	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.50	3・4	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	1.50	1・2	2	1
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

留学生で占められていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
昨年度、不開講

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

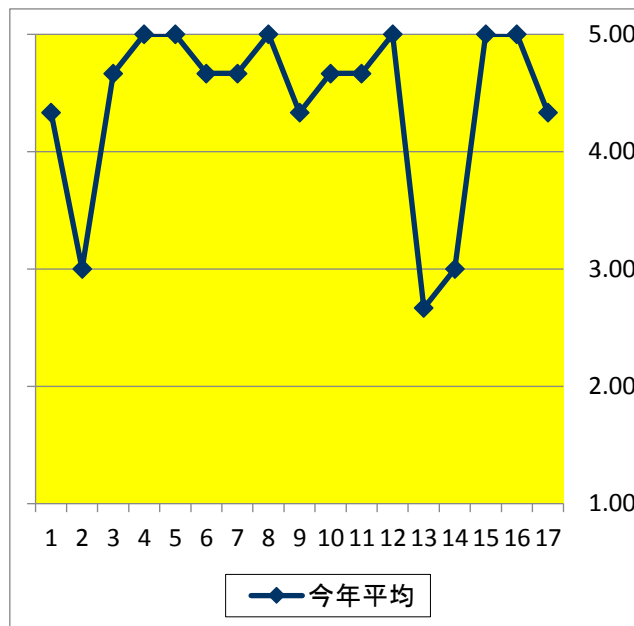
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

社会人向けの講義構成のため、大学院生には簡単な内容となっている。
ディスカッションの機会を増やしたいと考えている。

科 目	特殊講義(公会計論)＜公会計論＞		
配当年次	1	開講時限	秋月2
受講者数	9	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.67	5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	4.67	5	5	4
7	—	4.67	5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.33	5	5	3
10	—	4.67	5	5	4
11	—	4.67	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.67	1・2・5	5	1
14	—	3.00	2	5	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.33	4	5	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

回答数が少ないので一般化できないが、出席率は高く、満足度も高い。また、授業の進度は適切なようである。なお、受講生全員の学習履歴をとっているため、それから推定する限り未回答者についても回答者と同様の傾向が読み取れそうである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

はじめての試みであるが、各自に、自治体の一つ、非営利法人の一つ選択させ、それぞれの公表財務諸表を分析させながら、公会計の論点を講義した。営利企業以外ではじめて接する財務諸表であるため、戸惑いもあったようだが、それだけに理解も深まったようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

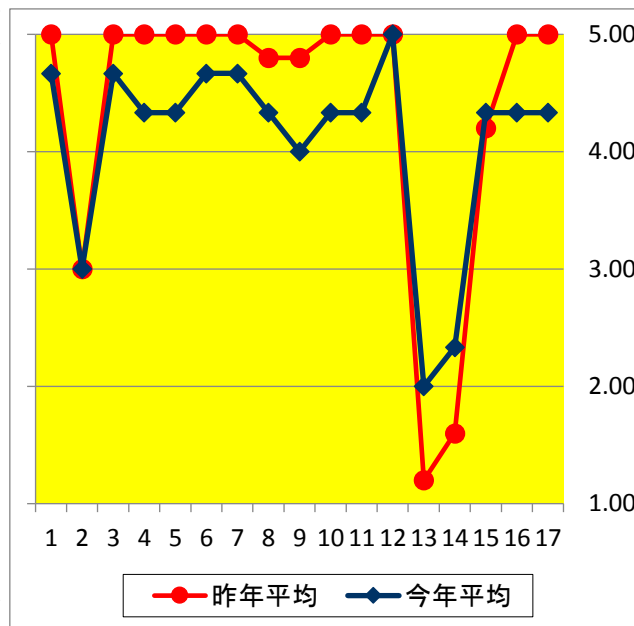
該当なし(昨年度未実施)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も人数は大きく増えないようであると、昨年同様に、自治体や非営利法人の実際の財務諸表を分析させながら、公会計の論点を講じるという演習形式をも取り入れる。

科 目	特殊講義(病院経営の勘どころ・日本経営グループ寄附講座)		
配当年次	1	開講時限	秋後月6～7
受講者数	7	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.67	5	5	4
4	5.00	4.33	4	5	4
5	5.00	4.33	4	5	4
6	5.00	4.67	5	5	4
7	5.00	4.67	5	5	4
8	4.80	4.33	4	5	4
9	4.80	4.00	3・4・5	5	3
10	5.00	4.33	4	5	4
11	5.00	4.33	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.20	2.00	1	4	1
14	1.60	2.33	1・2・4	4	1
15	4.20	4.33	4	5	4
16	5.00	4.33	4	5	4
17	5.00	4.33	4	5	4
回答者数	5	3			



受講生の傾向

本科目は大学院生と社会人の共同授業であるが、今年度はコロナ禍の影響もあり、社会人の受講はなく大学院生のみ受講となって、受講者数も7名であった。また、授業はオンライン形式で実施されたが、出席率はよく、学生もまじめに授業に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は大学院生のみでのオンライン授業となり、この点での工夫が必要となった。レクチャーについては、オンライン授業であっても大きな問題はないが、ディスカッションやグループワークについては進行の困難さが伴い、オンライン上でも円滑に行われるよう工夫をする必要があった。例えば、オンラインのグループに担当教員が適宜加わっていったり、ディスカッションが活発になるよう教員によるアシストが行われるなど、オンライン授業特有の手当を行うなどした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

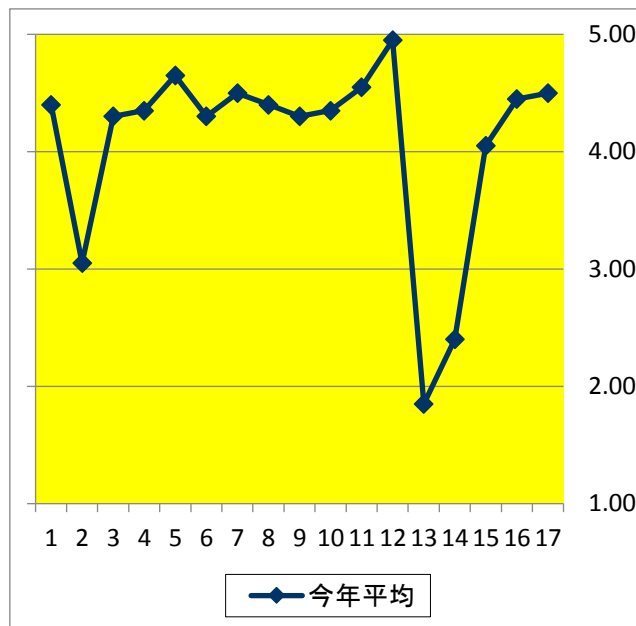
次年度2021年度が寄附講座最終年度となるため、本科目の特徴である社会人受講生と会計研究科院生とのグループワークによる相互研鑽が可能となるよう効果的なケース提供による理論と実践の融合を可能としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本授業は今年度と終了となるため、「今後の対応」は不要とはなるが、上記で述べたようにオンライン授業特有の工夫は、今後他の授業においても、コロナ禍等このような状況にある場合には、必要となるであろう。

科 目	特殊講義(連結会計実務)			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	30	回答者数	20	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.40	4	5	3
2	—	3.05	3	4	2
3	—	4.30	4	5	2
4	—	4.35	4	5	2
5	—	4.65	5	5	3
6	—	4.30	5	5	2
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.40	5	5	3
9	—	4.30	4	5	3
10	—	4.35	4	5	2
11	—	4.55	5	5	4
12	—	4.95	5	5	4
13	—	1.85	1	5	1
14	—	2.40	1	5	1
15	—	4.05	4	5	3
16	—	4.45	5	5	3
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	20			



受講生の傾向

連結会計について、全く初めての人からある程度学習が進んでいる人までレベルにかなりバラツキが見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初めて実施した講義のため、昨年度との比較はできないが、連結会計の基本的処理を習得してもらえるように例題等を作成した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

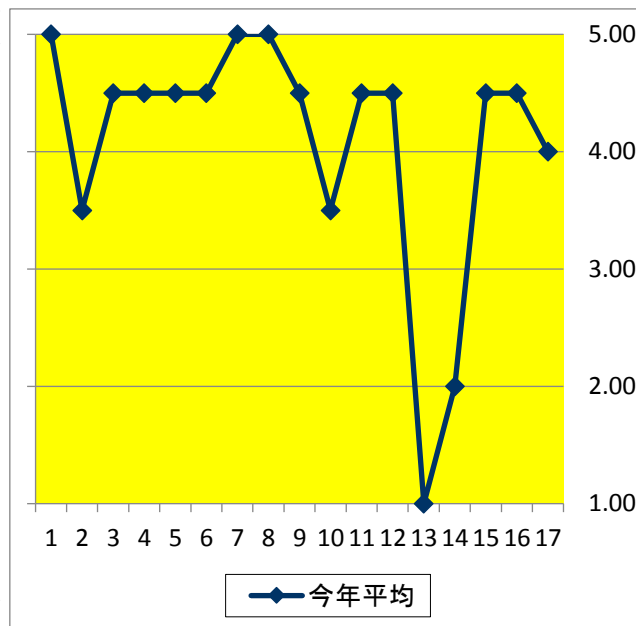
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

テストの様子を見ると、もう少し難しかったように思うので、次年度はこまめに小テストを実施し、学生の復習時間を確保させたい。

科 目	特殊講義(公監査論)＜公監査論＞		
配当年次	2	開講時限	秋水2
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.50	3・4	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	3.50	2・5	5	2
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.50	4・5	5	4
13	—	1.00	1	1	1
14	—	2.00	2	2	2
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

2名の受講者があり、久々に開講となった。2名とも一定以上の学力があり、授業は進行しやすかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年は不開講であったが、一般に常識として理解すべき公会計・監査の基礎的知識を中心に解説した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

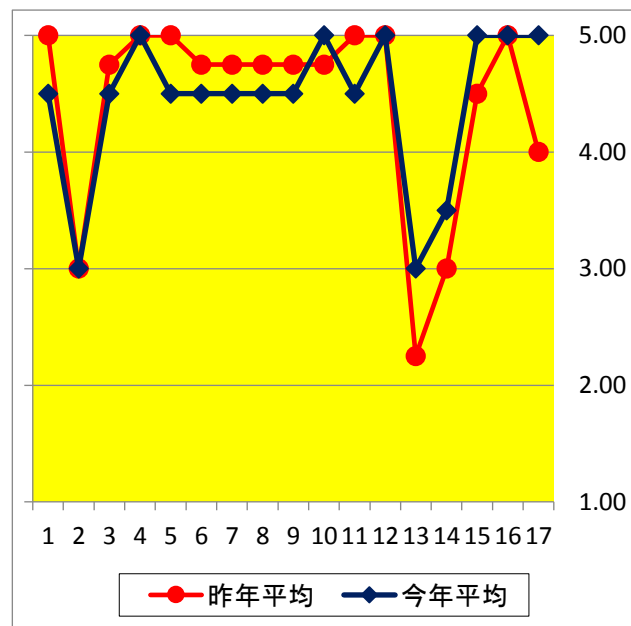
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習の時間がゼロとの回答であったが、確かに授業内容を説明するので精一杯であり、事前の課題を出すところまではいかなかった。やはり身近な課題と公会計・公監査との関係を知るうえでも事前の学習を課題として与えることを検討する。

科 目	特殊講義(貸借対照表論) 《特殊講義(負債・資本会計論)＜負債・資本会計論＞》			
配当年次	1	開講時限	秋月4	
受講者数	8	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.75	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	4.75	4.50	4・5	5	4
7	4.75	4.50	4・5	5	4
8	4.75	4.50	4・5	5	4
9	4.75	4.50	4・5	5	4
10	4.75	5.00	5	5	5
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.25	3.00	1・5	5	1
14	3.00	3.50	2・5	5	2
15	4.50	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	4	2			



受講生の傾向

講義内容を大幅に変更した。回答数が少ないので一般化はしにくいですが、それでも、出席率と満足度は高い。また授業の進度は適切なようである。学習履歴を取っているが未回答者も含めて、極めて真面目である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今学期は科目名の変更に伴い、貸借対照表の理論に特化し、なかでも純資産を中心に講義した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

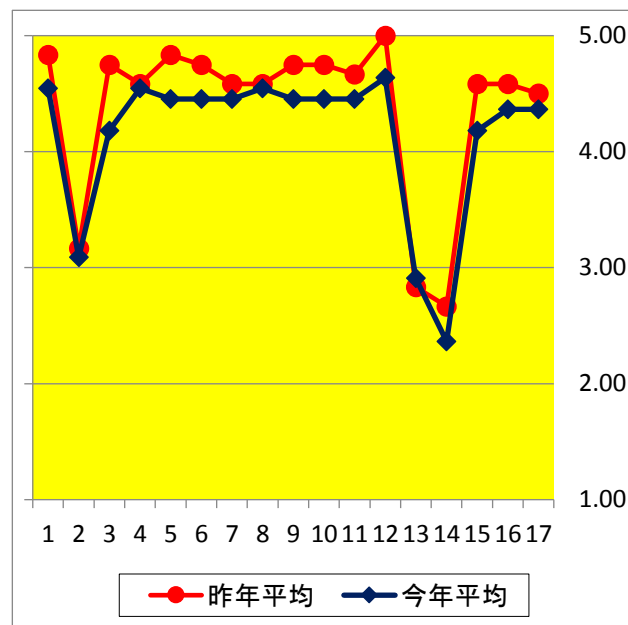
人数が数名程度と少人数が続いている。そのため、演習形式の授業が可能である。
来年度は本科目「特殊講義(負債・資本会計論)＜負債・資本会計論＞」は廃止される予定であるが、少人数の科目には本科目のやり方を踏襲できる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

人数次第であるが、本年度・前年度同様に、随時演習形式を取り入れる。

科 目	租税法理論			
配当年次	2	開講時限	秋火4	
受講者数	13	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.55	5	5	4
2	3.17	3.09	3	4	3
3	4.75	4.18	4・5	5	1
4	4.58	4.55	5	5	4
5	4.83	4.45	4	5	4
6	4.75	4.45	4	5	4
7	4.58	4.45	4	5	4
8	4.58	4.55	5	5	4
9	4.75	4.45	4	5	4
10	4.75	4.45	4	5	4
11	4.67	4.45	4	5	4
12	5.00	4.64	5	5	4
13	2.83	2.91	3	5	2
14	2.67	2.36	2	4	1
15	4.58	4.18	5	5	3
16	4.58	4.36	4・5	5	3
17	4.50	4.36	4・5	5	3
回答者数	12	11			



受講生の傾向

受講生13名の内訳は、会計士志望3名、税理士志望8名、その他の志望2名であった。質問No.13及び14の結果から、受講生は、昨年度とは逆に、復習ではなく、予習に時間をかけて、授業に臨んでいたと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税法規の当てはめ(法の適用)及び租税判例の理解については、昨年度の方法を踏襲した。前者は公認会計士試験の過去問を題材に受講生との議論に重点をおくこと、後者は課題レポートに取引図を必ず記載させ、かつ、授業内で事件の概要を報告させた。また、受講生との議論のための時間確保として、講義内容の絞り込みと講義レジュメの見直しを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

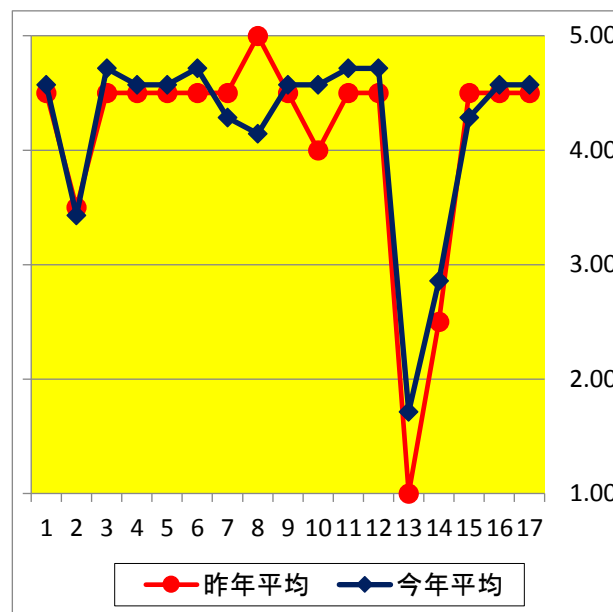
租税法規の当てはめ(法の適用)及び租税判例の理解については、今年度の方法は有効と思われる。次年度も採用したい。なお、公認会計士試験の過去問については、受講生に実際に解答を書かせることが重要である。そのための時間を授業時間内で確保するため、講義内容及び講義レジュメの更なる見直しを行う予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問を題材に受講生との議論を行うことは、受講生の理解向上に有効であると思われる。次年度も引き続き、受講生との議論の時間を確保すべく、講義内容の更なる絞り込みと講義レジュメの充実を行っていきたい。

科 目	租税法会計論			
配当年次	2	開講時限	秋月4	
受講者数	8	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.57	5	5	4
2	3.50	3.43	3	4	3
3	4.50	4.71	5	5	4
4	4.50	4.57	5	5	4
5	4.50	4.57	5	5	4
6	4.50	4.71	5	5	4
7	4.50	4.29	4・5	5	3
8	5.00	4.14	5	5	3
9	4.50	4.57	5	5	4
10	4.00	4.57	5	5	3
11	4.50	4.71	5	5	4
12	4.50	4.71	5	5	4
13	1.00	1.71	1・2	3	1
14	2.50	2.86	3	5	1
15	4.50	4.29	4・5	5	3
16	4.50	4.57	5	5	4
17	4.50	4.57	5	5	4
回答者数	2	7			



受講生の傾向

受講生8名の内訳は、会計士志望4名、税理士志望1名、他の志望3名であった。また、会計士志望と税理士志望の受講生は所得税法と消費税法の既修者であったが、他の志望者は初学者であった。質問No.16及び17が昨年度を上回っており、本授業は受講生の知識と理解の向上に貢献できたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、初学者への対応として、初学者向きのテキストを教科書指定するとともに、初学者の理解を授業進度の目安とした(質問No.2の結果に反映)。次に、既修者への対応として、公認会計士試験の過去問を難易度に沿って講義レジュメに配列し、既修者が授業内で出来る限り多くの過去問を解答できるよう長めの時間設定を行い、解説も難度の高い箇所を重点的に行う方法(計算プロセスも含めた解答は別途配布し、難度の高い箇所のみ解説)を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

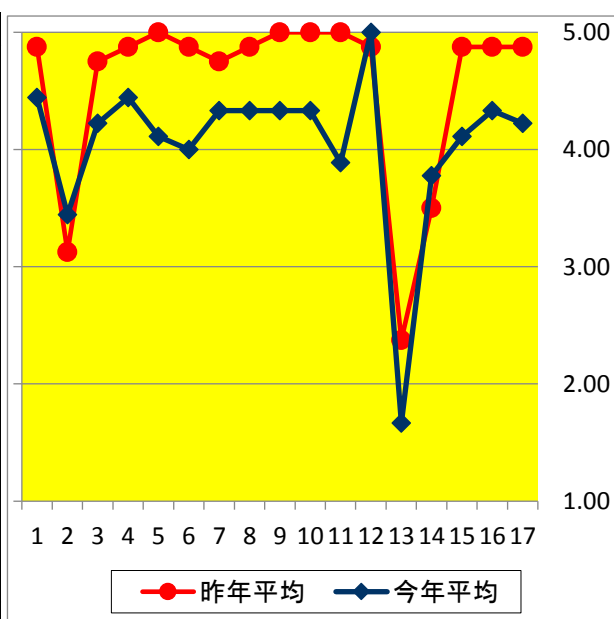
初学者に対する今年度の対応は、有効であった。ただ、今年度は受講生が2名で、かつ、初学者が1名という特殊な状況であったためとも考えられる。次年度は、初学者が増えた場合でも有効となる対応を進めたい。また、これまでの傾向として、所得税法よりも消費税法を苦手とする初学者が多い。そのため、次年度は、消費税法に関する講義内容及び講義レジュメの更なる改善を目指す予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度に採用した方法は、初学者だけでなく、既修者への対応も兼ねたものであり、教育上ある程度の効果があったものと思われる。この方法の前提には、講義レジュメと解答(別配布資料)の内容充実が不可欠である。次年度も引き続き、それらの内容の充実を図りつつ、今年度に採用した方法を継続したい。

科 目	基本会計プログラム演習(1)			
配当年次	1	開講時限	秋月4	
受講者数	17	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.88	4.44	4	5	4
2	3.13	3.44	3	4	3
3	4.75	4.22	4	5	4
4	4.88	4.44	4	5	4
5	5.00	4.11	4	5	3
6	4.88	4.00	4	5	3
7	4.75	4.33	4	5	4
8	4.88	4.33	4・5	5	3
9	5.00	4.33	4	5	4
10	5.00	4.33	4	5	4
11	5.00	3.89	4	5	3
12	4.88	5.00	5	5	5
13	2.38	1.67	1	5	1
14	3.50	3.78	5	5	1
15	4.88	4.11	4	5	3
16	4.88	4.33	4・5	5	3
17	4.88	4.22	4	5	4
回答者数	8	9			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が真摯に出席していたが、成績分布から真摯に受講していたのか疑問が生じる学生が散見される。また、冒頭3回はオンラインであったため、対面講義に戻ってからこの部分のフォローを行っているため、授業内容が分散し理解が充分ではなかった可能性がある。また、授業進度を遅くしているにもかかわらず、やや早いと感じているようである。この点が、授業評価アンケートの結果と連動しているように思われ、昨年度より平均的に受講による満足度が低いように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のポイントを理解しやすいように板書し、前回の授業内容とのつながりを明確にしつつ、当該回の授業内容を明確にし、演習内容の意味を全体の位置づけの中で理解しやすいように行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

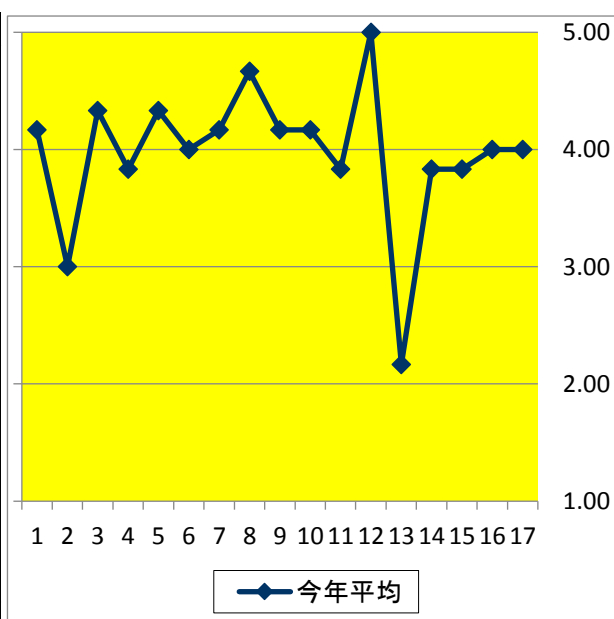
昨年度の「今後の対応」を踏まえて今年度の授業を実施した結果、方向性の変更が必要となるようなアンケート結果ではなかったと考える。そのため、授業のポイントを理解しやすいよう板書を含めた説明と演習時の個々の実施状況を踏まえた補足説明を丁寧に実施していくつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コンピュータを使用した演習を含む授業でオンライン講義が部分的になされたため、その部分の影響は「今後の対応」に含める必要はないと思われる。板書によって講義内容のポイント及び前回授業とのつながりを引き続き明示しつつ、演習時には個々の実施状況を把握しつつ、補足的な説明とともに理解度が低いと思われる箇所については、ポイントを強調して説明し、演習において反映されていることを確認しつつ実施するつもりである。また、授業内容をアレンジしなおし、理解しやすい流れを再構築するつもりである。

科目	基本会計プログラム演習(2)			
配当年次	1	開講時限	秋火1	
受講者数	16	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.17	4	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.33	5	5	3
4	—	3.83	4・5	5	2
5	—	4.33	5	5	3
6	—	4.00	5	5	2
7	—	4.17	5	5	3
8	—	4.67	5	5	4
9	—	4.17	4	5	3
10	—	4.17	4	5	3
11	—	3.83	3	5	3
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.17	1	5	1
14	—	3.83	5	5	1
15	—	3.83	4	5	3
16	—	4.00	3・4・5	5	3
17	—	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	—	6			



受講生の傾向

半数の受講生が真摯に出席していたが、残りの受講生については成績分布や課題の提出状況から真摯に受講していたのか疑問が生じる。また、冒頭3回はオンラインであったため、対面講義に戻ってからこの部分のフォローを行っているため、授業内容が分散し理解が充分ではなかった可能性がある。この点が、授業評価アンケートの結果と連動しているように思われ、昨年度より平均的に受講による満足度が低いように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度不開講であるが、月曜4時限で開講している同じ授業と同様に、授業のポイントを理解しやすいように板書し、前回の授業内容とのつながりを明確にしつつ、当該回の授業内容を明確にし、演習内容の意味を全体の位置づけの中で理解しやすいように行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

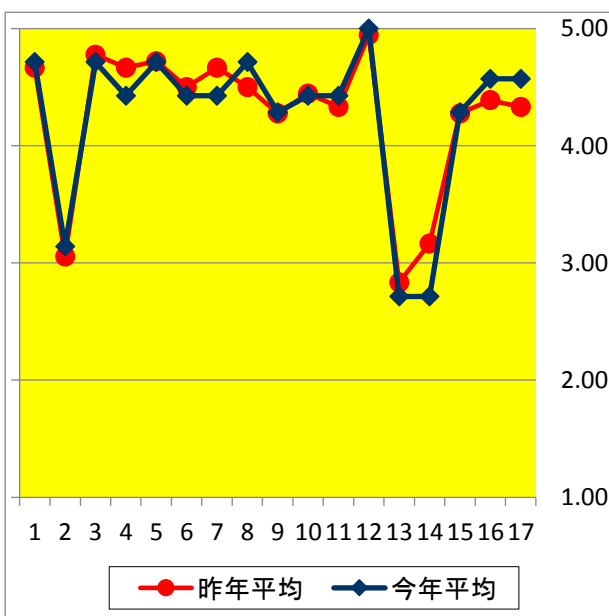
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コンピュータを使用した演習を含む授業でオンライン講義が部分的になされたため、その部分の影響は「今後の対応」に含める必要はないと思われる。板書によって講義内容のポイント及び前回授業とのつながりを引き続き明示しつつ、演習時には個々の実施状況を把握しつつ、補足的な説明とともに理解度が低いと思われる箇所については、ポイントを強調して説明し、演習において反映されていることを確認しつつ実施するつもりである。同時に、授業内容をアレンジしなおし、理解しやすい流れを再構築するつもりである。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	10	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.71	5	5	4
2	3.06	3.14	3	4	3
3	4.78	4.71	5	5	4
4	4.67	4.43	4	5	4
5	4.72	4.71	5	5	4
6	4.50	4.43	4	5	4
7	4.67	4.43	5	5	3
8	4.50	4.71	5	5	4
9	4.28	4.29	5	5	2
10	4.44	4.43	4	5	4
11	4.33	4.43	4	5	4
12	4.94	5.00	5	5	5
13	2.83	2.71	2・3・4	4	1
14	3.17	2.71	1・2・5	5	1
15	4.28	4.29	4	5	4
16	4.39	4.57	5	5	4
17	4.33	4.57	5	5	4
回答者数	18	7			



受講生の傾向

昨年と比べて大きな変動はないが、質問No.14の「この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。」が、昨年の1時間強から1時間弱へ減少している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

グループディスカッションではなく、個人発表の形式は踏襲した。受講人数の関係で、毎回全員に発表させるのではなく、事前に指名した院生に発表を求めた。最低4回は発表の機会を設けた。質問の時間確保は実効的な機会を設けられなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

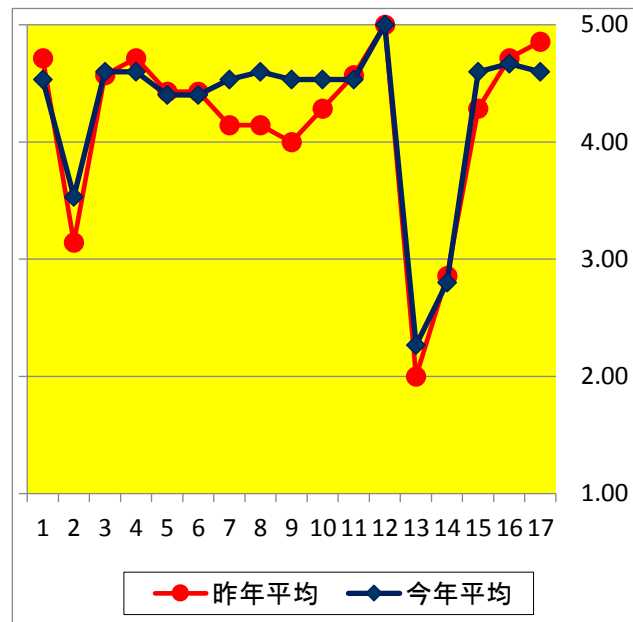
質問の時間は授業の最後に確保する。
グループディスカッション方式を採用していない点は、初回授業で説明する。
質問しやすい環境を工夫する(直前に近くの院生同士で質問し合うなど)。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問の時間は授業の最後に確保する。
来学形式が定着したした場合、説明フェーズの授業後半に、近くのグループでの「ディスカッション機会」を設定する。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋月2	
受講者数	18	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.53	5	5	4
2	3.14	3.53	3	5	3
3	4.57	4.60	5	5	4
4	4.71	4.60	5	5	3
5	4.43	4.40	5	5	1
6	4.43	4.40	5	5	3
7	4.14	4.53	5	5	4
8	4.14	4.60	5	5	4
9	4.00	4.53	5	5	3
10	4.29	4.53	5	5	2
11	4.57	4.53	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	2.27	1	5	1
14	2.86	2.80	2	5	1
15	4.29	4.60	5	5	3
16	4.71	4.67	5	5	4
17	4.86	4.60	5	5	3
回答者数	7	15			



受講生の傾向

対面で実施された今年度も授業参加度を測る出席率(項目12)においてほぼ100%を達成しており、オンラインで実施された昨年度と同様に非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。またPC実習を対面で実施できたことで、授業進度(項目2)、説明の仕方(項目5)、配布資料(項目6)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)、宿題や小テスト(項目9)、クラス規模(項目10)、ならびに満足度(項目11)といった項目のほぼ全てにおいて、昨年実績より改善している。

また、全体的な理解度が若干低下したものの(項目17)、本科目の受講に伴う学習意欲(項目15)は相対的に昨年実績よりも高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、講義資料及びテキストに基づいて監査基準及び監査実務指針を纏め直したスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針等を配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

今年度は、監査プロセスと内部統制評価に関する理解度を確認するため、2度の課題(掛け売上取引に関するフローチャートの作成と当該取引に係る内部統制の整備状況評価)を課した。加えて、PCを利用した監査手続(銀行預金売掛金)を経験するとともに、証憑突合による実証手続の実施、ならびに監査調書を課題とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

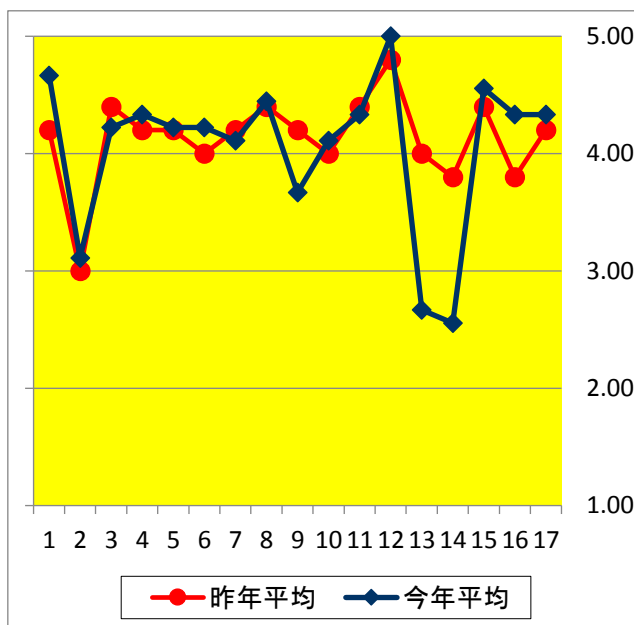
PC実習科目であるにもかかわらず、オンラインによる講義形式だったため、授業評価アンケートの回収率にも表われているように、受講生の積極的な関与を可能とする方法を特別に案出する必要がある。今後、オンライン講義を行う場合、単に課題を課すだけでなく、講義中のより頻繁かつランダムな質疑応答をオンラインで実施して緊張感を維持しなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対面による講義に移行したため、より多くのPCを用いた監査手続の実施と文書化を習得できるような機会を増やしたい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（中村クラス）			
配当年次	1	開講時限	通隔月5	
受講者数	13	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.67	5	5	4
2	3.00	3.11	3	4	3
3	4.40	4.22	4	5	4
4	4.20	4.33	4	5	4
5	4.20	4.22	4	5	4
6	4.00	4.22	4	5	4
7	4.20	4.11	4	5	3
8	4.40	4.44	5	5	3
9	4.20	3.67	3・4	5	3
10	4.00	4.11	4	5	3
11	4.40	4.33	4	5	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	4.00	2.67	3	5	1
14	3.80	2.56	2	5	1
15	4.40	4.56	5	5	4
16	3.80	4.33	4	5	4
17	4.20	4.33	4	5	4
回答者数	5	9			



受講生の傾向

13名の受講生は昨年度と同様、全て税理士志望者であった。また、昨年度は1名のみ判例分析の既修者がいたが、今年度は全て初学者でもあった。このように受講生の学習状況に大きな違いがないにもかかわらず、質問No.13と14の結果が昨年度よりも大きく下がっている。これは、今年度の授業では、判例分析を上手くできずに報告を行う受講生がしばしば散見されたことと符号する。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は、コロナ禍の影響でZoomを使って授業を行うこともあったが、対面型での指導と同様の教育効果を目指し、Zoomによるオンラインでの議論を積極的に行うようにした。また、昨年度に確認できた2つの課題(不適切な引用表記と不十分な私見)に対しては、残念ながら今年度の授業でもしばしば散見されたため、繰り返し注意喚起を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

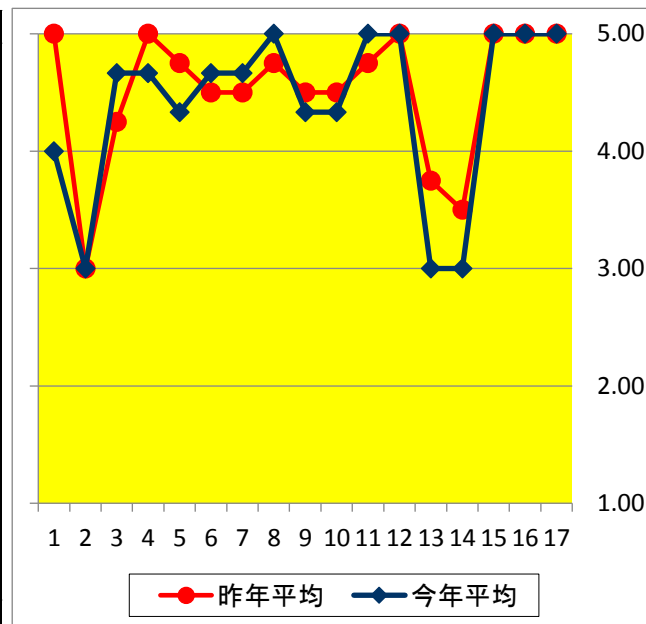
昨年度から継続採用したグループによる質疑応答形式は、本年度も受講生の理解向上に貢献したと思われる。むしろ、新たな課題が、形式面と実質面の2つから確認された。前者は不十分な引用表記であり、後者は判例分析後の私見の不十分さである。次年度は、これらの点に注意して指導を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に確認できた2つの課題に対し、受講生の立場からみると克服するための難度に違いがあるように思われる。そこで、まずは第一の課題である不適切な引用表記を学生に理解させ、適切な引用表記ができるよう指導を行いたい。その上で、次のステップとして、第二の課題である私見の不十分さに対する指導を行いたい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（松本クラス）		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	6	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.25	4.67	5	5	4
4	5.00	4.67	5	5	4
5	4.75	4.33	4	5	4
6	4.50	4.67	5	5	4
7	4.50	4.67	5	5	4
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.50	4.33	4	5	4
10	4.50	4.33	5	5	3
11	4.75	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.75	3.00	2・3・4	4	2
14	3.50	3.00	2・3・4	4	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	4	3			



受講生の傾向

受講生の授業参加意欲を測る出席率（項目12）においてはほぼ90%以上を達成しているが、演習のための予習時間（項目13）と復習（項目14）時間が減少した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習生からの希望を聴取した上で監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討すると同時に解説を行った。

SNSを活用することで複数の課題を事前に配布して予習を促し（項目13）と復習時間（項目14）も確保するように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

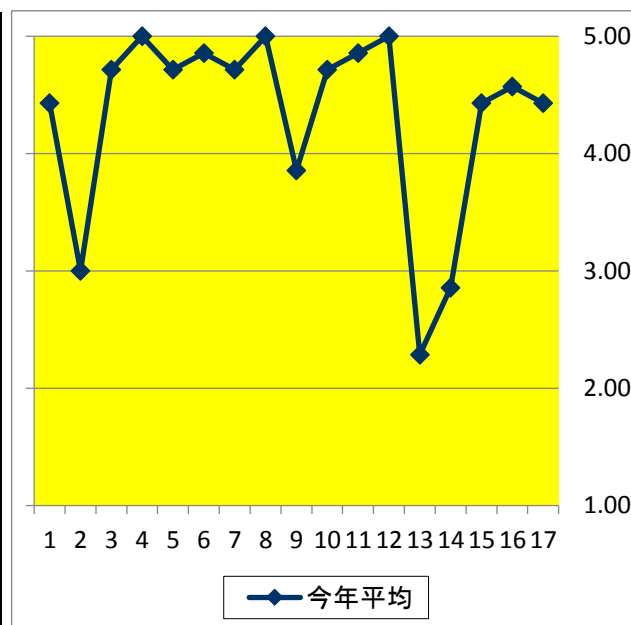
SNSを用いた教材・課題情報だけでなく、質問の受け付けと回答の提供を適時に行えるように措置したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

クラウドに共有フォルダを設けることで、演習生側からの課題提出を事前に共有フォルダに提出させ、演習生全員で点検したい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（三島クラス）			
配当年次	1	開講時限	通隔火5	
受講者数	8	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.43	5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.71	5	5	4
6	—	4.86	5	5	4
7	—	4.71	5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	3.86	3	5	3
10	—	4.71	5	5	4
11	—	4.86	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.29	2	5	1
14	—	2.86	1・4	5	1
15	—	4.43	4	5	4
16	—	4.57	5	5	4
17	—	4.43	4	5	4
回答者数	—	7			



受講生の傾向

今年度のアカデミック・ソリューションの受講生は8名であり、その全員が公認会計士を目指しているというのもあって、授業には真面目に取り組んでおり熱心に受講していた。また、授業に必要な学力習得するための予習・復習もできていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

私としては、学術研究員の関係で、久しぶりのアカデミック・ソリューションとなった。またこれまでの秋学期開講と異なり通年隔週開講となってからは初めてとなる。通年ということで学生を1年間指導することとなるが、1年生の1年間で学力が大きく伸びるということを踏まえて、学力向上に合わせて授業レベルを変化させるといった工夫を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

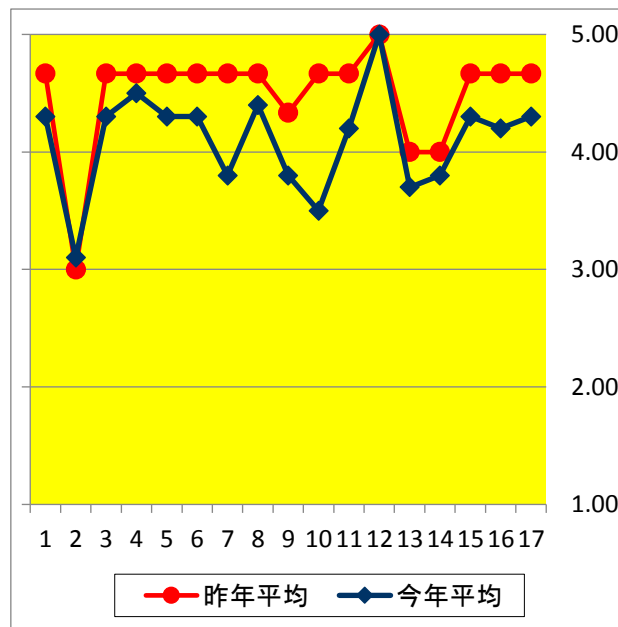
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も上記において記載したとおりであるが、今後も隔週1年間開講という仕組みをうまく利用していきたい。学生の学力の伸びというものに授業を合わせることができし、夏季休暇期間もまた指導の一環ととらえることもできる。今後はより一層の学生の学習進度やレベルに配慮し、対応できるようにしていきたい。

科 目	論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋金5
受講者数	13	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.30	4	5	4
2	3.00	3.10	3	4	3
3	4.67	4.30	4	5	4
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.67	4.30	4	5	4
6	4.67	4.30	4	5	4
7	4.67	3.80	3・4	5	3
8	4.67	4.40	5	5	3
9	4.33	3.80	3・4	5	3
10	4.67	3.50	4	5	2
11	4.67	4.20	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	3.70	5	5	1
14	4.00	3.80	5	5	1
15	4.67	4.30	4	5	4
16	4.67	4.20	4	5	4
17	4.67	4.30	4	5	4
回答者数	3	10			



受講生の傾向

受講生13名は、昨年度と同様、全て税理士志望者であった。また、受講者数は昨年度の9名から13名へと増加したが、質問No.10の結果の通り、多人数であることが受講生にとって必ずしもマイナスとはならなかったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生13名による各報告の機会については、受講生の協力の下、最大5回の報告機会を提供した。また、今年度より研究計画書が成績評価の対象とされたことから、受講生には研究計画書のフォームに沿って報告することも指導した。また、今年度の受講生にも研究テーマを報告の都度変更したものがおり、当該学生には研究テーマを安易に変更することの問題を繰り返し説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

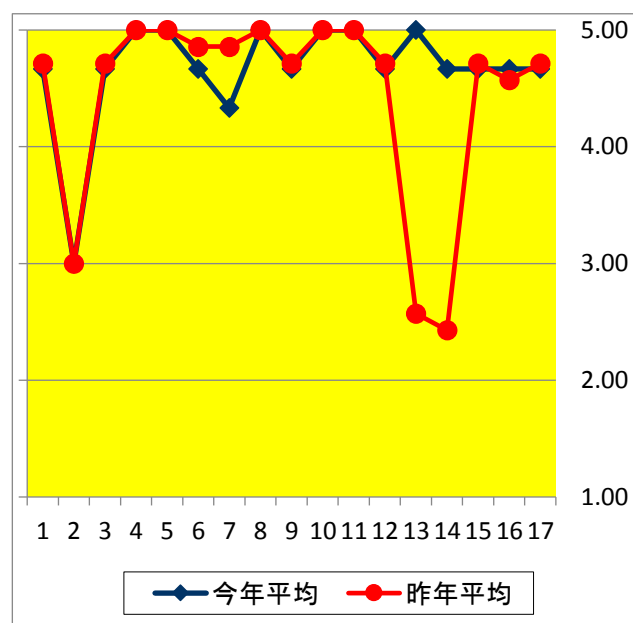
複数回の報告を通じて、論題設定のできる受講生がいる一方、論題設定のできない受講生がいる。後者の受講生の特徴として、研究テーマを何度も変更する傾向が見られた。次年度は、この点に留意し、後者の受講生への指導を行っていききたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論題設定に至らなかった受講生が2名いた。一人は、研究テーマを5回全て異なって報告した受講生である。もう一人は、判例分析ができず、解釈論自体が理解できなかった学生である。前者は昨年度からの課題であるが、後者は、アカデミック・ソリューションでの学習を習得できなかった結果である。従って、後者への対応として、隔週通年科目であるアカデミック・ソリューションとの連携を意識し、指導を行いたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートタイズ＞（三島クラス）			
配当年次	2	開講時限	通隔木5	
受講者数	5	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.71	4.67	5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.86	4.67	5	5	4
7	4.86	4.33	5	5	3
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.71	4.67	5	5	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.71	4.67	5	5	4
13	2.57	5.00	5	5	5
14	2.43	4.67	5	5	4
15	4.71	4.67	5	5	4
16	4.57	4.67	5	5	4
17	4.71	4.67	5	5	4
回答者数	7	3			



受講生の傾向

今年度は受講生が5名ということで、例年よりもやや少ない人数となった。少人数5名ということで、個別的な指導を行うこととしたが、それぞれに自己の研究テーマに積極的に取り組み、授業態度も真面目であった。また、コロナ禍の状況の中で、特別に配慮する必要のある受講生もいたが、オンライン授業で滞りなく実施することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は受講生の学習目的や学力レベルに大きく差があったために、授業内容や進度等を受講生ごとに合わせるようにした。具体的には、公認会計士志望の受講生および論文執筆を目的とした受講生が受講しており、さらには、公認会計士志望の受講生でもその学習進度やレベルに差があり、論文執筆を目的とした受講生においても論文テーマや執筆ペースに際が見られた。これらに臨機応変に対応すべく、極力個別的な指導を心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

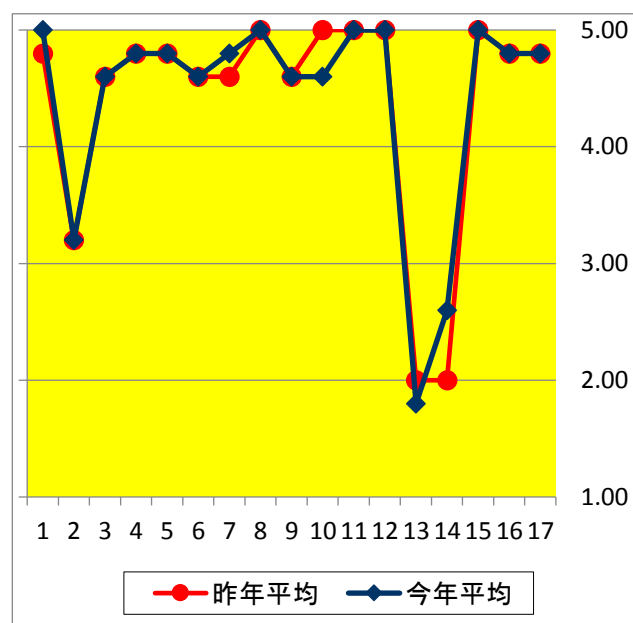
今年度は受講生全員が公認会計士志望であったため、その目的に沿った内容で授業を進めることができたが、今後はそのような状況とは限らず、公認会計士志望の受講生もいれば、その他法的な論文を執筆をすることができるようなことを目的とする受講生がいることも考えられる。さらには、受講生の学習レベル・進度についてもばらつきがあることも考えられる。今後のソリューションの在り方とすれば、このような状況を踏まえ、臨機応変に対応するようにしたい。具体的には、受講生の学習目的やレベルによってクラス分け等も念頭に置く必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は各受講生に学習目的や学力レベルに大きく差があったが、受講生が5名という少人数であったため、個別的な対応が可能な状況であった。しかしながら、受講生が従来と同様10名程度である場合には、クラス分けの工夫などを考えなければならない。今後も、公認会計士試験合格や論文の執筆などの目的を踏まえて、効率的な授業を心掛けるとともに、それぞれの学習レベルや進度に合わせた授業を行う必要があるが、通年授業という1年間の授業期間の中で、学生の学力や学習進度は変化していくものであるため、この点も把握できるよう学生に目を向け、コミュニケーションを密にとっていくことが必要となる。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートタイズ＞（松本クラス）			
配当年次	2	開講時限	通隔金5	
受講者数	6	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	5.00	5	5	5
2	3.20	3.20	3	4	3
3	4.60	4.60	5	5	4
4	4.80	4.80	5	5	4
5	4.80	4.80	5	5	4
6	4.60	4.60	5	5	3
7	4.60	4.80	5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.60	4.60	5	5	4
10	5.00	4.60	5	5	3
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	1.80	1・2	3	1
14	2.00	2.60	3	4	1
15	5.00	5.00	5	5	5
16	4.80	4.80	5	5	4
17	4.80	4.80	5	5	4
回答者数	5	5			



受講生の傾向

受講生の授業参加度（項目12）は非常に高く積極的な演習への参加が認められる。しかし演習のための復習時間（項目14）は改善したものの、予習時間（項目13）が減少してしまっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習生の希望により監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行えるように、共有フォルダをクラウドに設けることで複数の課題を事前に配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

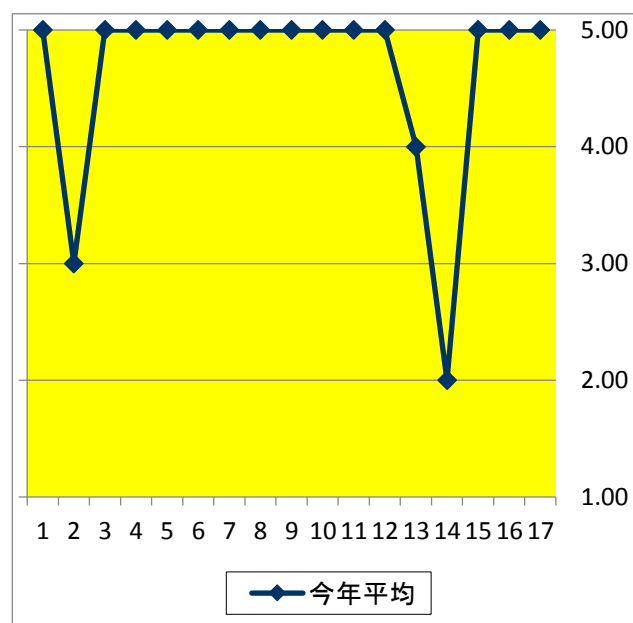
記述指導を必要とする受講生について、演習中の課題への解答を添削指導するために別の機会を設けることで論文作成能力を高めるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

SNS及びクラウドの共有フォルダにおいて課題と各自の解答を共有することで、より効果的に学習できるようにしたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートイズ＞（加藤クラス）			
配当年次	2	開講時限	通隔木5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	4.00	4	4	4
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

受講生は、会計専門職としてのスキルを高めるため、熱心に課題に取り組んでいた。自ら課題を選択し、ディスカッションにも意欲的であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は1名であり、当該学生の受講目的を満足させるように講義を行った。受講生と相談の上、会計専門職として身に付けておきたいスキルをいくつかの課題に分け、それを再構築しながらプレゼンテーションとディスカッションを繰り返して行った。課題は、広く浅く取り扱ったものや、特定の論点を深く掘り下げたもの、あるいは、IFRSを原文で読んでまとめることなど、様々であった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

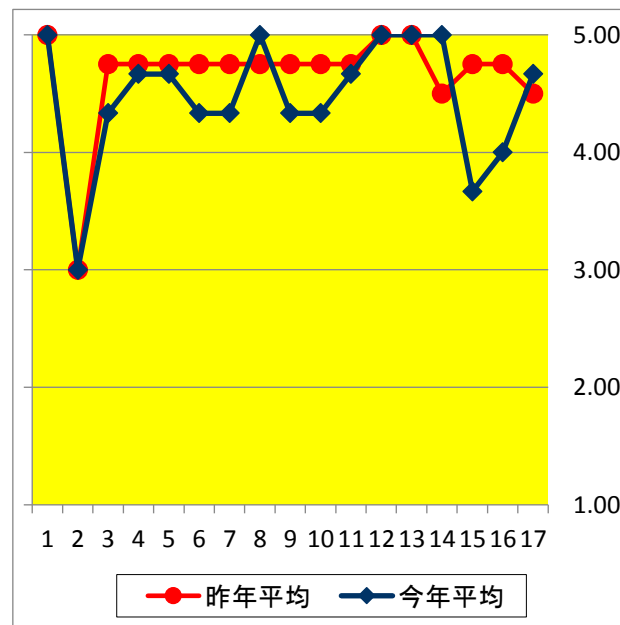
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科目	論文指導(実践) ＜論文指導・修士論文(実践)＞(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年火5
受講者数	4	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.75	4.33	5	5	3
4	4.75	4.67	5	5	4
5	4.75	4.67	5	5	4
6	4.75	4.33	5	5	3
7	4.75	4.33	5	5	3
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.75	4.33	5	5	3
10	4.75	4.33	5	5	3
11	4.75	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	4.50	5.00	5	5	5
15	4.75	3.67	5	5	1
16	4.75	4.00	5	5	2
17	4.50	4.67	5	5	4
回答者数	4	3			



受講生の傾向

受講生は4名であり、全て解釈論であった。受講生は質問No.13と14の結果の通り、昨年度に比べて多くの時間をかけて学習したようである。しかし、受講生2名は修論未完成となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期までに仮章立ての完成、11月頃までに新規性獲得の目標を掲げて論文指導を行った。また、受講生には必ず報告レジュメを作成させることで、研究の進捗状況を確認した。なお、火曜クラスには比較法研究を採用する受講生がいなかったため、比較法研究特有の問題を考慮する必要はなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

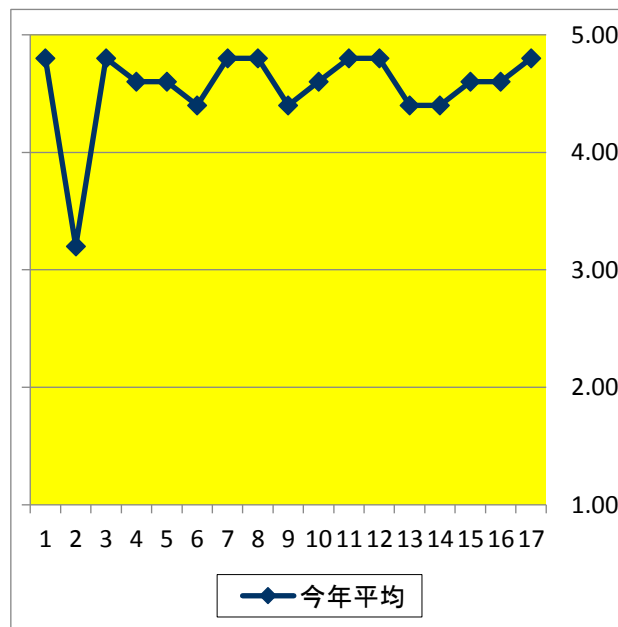
今年度採用した比較法研究を行う受講生への対応は、1名を除き、有効であった。従って、次年度も春学期から外書購読の授業と同様の指導を行いたい。また、有効に機能しなかった1名を振り返ると、比較法研究の本格的な着手が秋学期以降となった場合、修論完成までの時間がどうしても不足する。比較法研究を採用する場合の注意点として、受講生には事前に周知しておきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2名の修論未完成の原因は、M2での修論テーマ変更と論理的な長文が書けないことであった。前者は提出期限までのスケジュール管理が大切である点を受講生に理解させる必要がある。後者は、口頭でのやり取りと実際の執筆とは違いがある点を受講生に理解させる必要がある。

科 目	論文指導(実践) ＜論文指導・修士論文(実践)＞(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年金4
受講者数	5	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.80	5	5	4
2	—	3.20	3	4	3
3	—	4.80	5	5	4
4	—	4.60	5	5	3
5	—	4.60	5	5	4
6	—	4.40	5	5	3
7	—	4.80	5	5	4
8	—	4.80	5	5	4
9	—	4.40	5	5	3
10	—	4.60	5	5	4
11	—	4.80	5	5	4
12	—	4.80	5	5	4
13	—	4.40	5	5	3
14	—	4.40	5	5	3
15	—	4.60	5	5	4
16	—	4.60	5	5	4
17	—	4.80	5	5	4
回答者数	—	5			



受講生の傾向

受講生は5名であり、3名が解釈論、2名がアメリカ法を参考にした比較法であった。受講生は、質問No.13が示す通り、報告レジュメを毎回作成し、報告に臨んでいた。結果として、受講生3名は修論完成に至ったが、残念ながら2名は未完成となった。その原因は、1つが修論テーマが12月中旬まで決まらなかったことと、もう1つが判例分析ができないことであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期までに仮章立ての完成、11月頃までに新規性獲得の目標を掲げて論文指導を行った。また、受講生には必ず報告レジュメを作成させることで、研究の進捗状況を確認した。なお、金曜クラスには比較法研究を採用する受講生が2名いたため、外国文献の入手や翻訳作業等、解釈論3名とは一部異なる指導を行って、比較法研究をサポートした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度不開講)

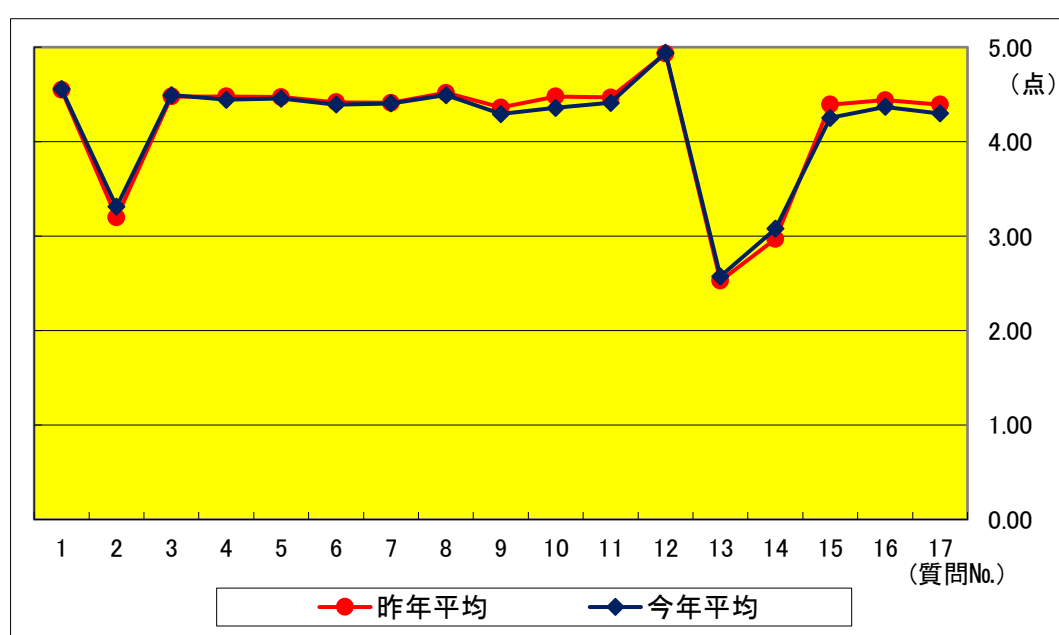
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上述した2名の修論未完成の原因のうち、前者(修論テーマが決まらないこと)については、M1配当の論文指導(基礎)で対応したい。また、後者(判例分析ができないこと)については、M1配当のアカデミック・ソリューションで対応したい。

Ⅲ-(3). 2021 年度授業評価アンケート総括

総 括

質問No.	昨年平均	今年平均
1	4.55	4.55
2	3.20	3.31
3	4.48	4.49
4	4.48	4.44
5	4.47	4.46
6	4.42	4.39
7	4.41	4.40
8	4.52	4.49
9	4.36	4.29
10	4.48	4.36
11	4.47	4.41
12	4.93	4.94
13	2.53	2.57
14	2.97	3.08
15	4.39	4.25
16	4.44	4.37
17	4.39	4.30
回答者数	403	633



2021年度も昨年に引き続き、コロナ禍の中での授業実施となった。特に春学期は、期間の半分ほどがオンライン授業となった。オンライン対応のため全体休講期間も生じ、春前クォーター授業の場合には、そのほとんどがオンライン授業という結果にもなった。秋学期にはコロナ禍の状況は続くものの、授業は期間通して原則対面で実施された。ただ、コロナの影響から、教員および受講生の側で対面授業困難な状況もあり、例外的に、一部の授業においてはオンライン授業が継続され、また対面授業の中でも一部オンラインで受講生に対応することもあった。全体的には、今年度はコロナの影響を受けた昨年度から、授業評価アンケートの結果としては大きく変わらなかった。個別の質問項目の分析結果は以下の通りである。

質問項目1(授業内容と授業計画の整合性)に関する今年度の評価は、昨年度と同じく平均4.55であった。次に、質問項目2(授業の進度)に関する今年度の評価は平均3.31であり、昨年平均(3.20)よりも改善され、同様に質問項目3(教員による授業準備)に関する今年度の評価は平均4.49であり、昨年度平均(4.48)よりもやや上昇した。したがって、授業進度および教員による授業準備に関する評価は昨年度よりも改善された。このことは、コロナ対応として行われた各種の遠隔授業に教員も慣れ、有効に活用できるようになったことがうかがえる。

質問項目4(教員の熱意)に関する今年度の評価は平均4.44であった。また、質問項目5(教員の話し方)に関する今年度の平均は4.46であった。これらの評価も昨年度からわずかな減少が見られるが、全体としては十分に高い評価である。そのため、これらの評点で示された講義中における教員の熱意、および教員の説明に対する受講生の満足度は、昨年度に引き続き安定して高いといえる。

質問項目6(教科書・配付資料の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.39、また、質問項目7(機材利用の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.40であり、両者ともに昨年度平均をわずかに下回ったが、引き続き高い水準であるといえる。テキスト、配付資料および機材利用について、受講生が満足していることがうかがえる。しかしながら、オンライン授業およびオンライン授業を経た対面授業においては、新たな教材提供および機材利用の可能性が大いに高まっており、今後はより一層この点で受講生の満足度を高めていきたい。

質問項目8(質問への対応)に関する今年度の評価は平均4.49で、また質問項目9(宿題および小テストの効果)に関する本年度の評価は平均4.29であった。これらは、いずれも昨年平均を下回ってしまったが、引き続き高い水準であるといえる。すなわち、昨年と同様、受講生は教員による質問対応、および教員による宿題および小テストの実施に納得していると考えられる。また、質問項目10(クラス規模)に関する本年度の評価は、平均4.36であり、昨年度よりもわずかに下回った。これらの質問項目8～10についても、コロナ禍の状況が大きく影響する項目である。今後は、様々な状況変化を踏まえて対応していきたい。

以上のアンケート結果と整合して、質問項目11(全体としての授業の満足度)に関する今年度の評価は平均4.41であり、昨年度平均からはわずかに減少しながらも、安定して高い評価を得た。したがって、教員による授業改善は、全体として問題が少ないと考えられる。

質問項目12(出席状況)に関する評点は平均4.94であった。したがって、受講生の出席率は、昨年度よりも若干改善した。昨年度におけるコロナ禍の混乱から脱却し、一定の落ち着きが見られたことと、受講生の出席に最大限配慮する措置が取られたこともその要因であると考えられる。また、質問項目13(予習)の回答は、今年度平均が2.57、および質問項目14(復習)の回答は今年度平均が3.08であった。したがって、遠隔授業によって受講生の出席状況および、受講生による予習時間、復習時間は遠隔授業に伴ってすべてにおいて改善が見られる。コロナ対応下における教育において予習および復習のあり方が徐々に確立されていったものと思われる。好ましい傾向ではあるが、今後も受講生が予習および復習に時間をかけるよう工夫をしていく必要がある。

質問項目15(講義による触発)に関する今年度の評価は平均4.25であった。質問項目16(職業会計人としての知識の増加)に関する今年度の評価は平均4.37であった。さらに、質問項目17(全体としての授業の理解度)に関する今年度の評価は平均4.30であった。これらの評価結果は、いずれも昨年度を下回っているが、全体としては高いと考えられる。

上記グラフおよび表では示されていないが、春学期と秋学期の平均を各項目で比較すると、ほとんどの項目で秋学期の方が上回っていた。これは、秋学期で原則として授業が対面に戻ったこととの関連性が大きいと分析できる。本年度もコロナ対応の中の授業ではあったが、次年度も状況の変化に対応しながら、本会計専門職大学院におけるFDの取り組みを継続し向上させていきたい。

IV. 講演会

2021 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2021 年 4 月 22 日(木)開催]

◇元国際会計士連盟会長／元日本公認会計士協会会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「目指そう・挑戦しよう 会計プロフェッションへの道」

■客員教授講演会

[2022 年 2 月 15 日(火)開催]

◇慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「ポストコロナの日本経済」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2022 年 2 月 25 日(金)開催]

◇ 有限責任あずさ監査法人 専務理事／大阪事務所長

原田大輔氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化の中で果たす公認会計士の役割とやりがい」

藤沼 亜起 客員教授講演会

日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟(IFAC)元会長
～目指そう・挑戦しよう 会計プロフェッションへの道～

会計専門職大学院では、2021 年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟 (IFAC) 元会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。

- 日時：2021 年 4 月 22 日 (木)
14:40～16:10
- 場所：千里山キャンパス第2学舎
4号館4階 F403 教室
- 演題：目指そう・挑戦しよう
会計プロフェッションへの道
- 対象：会計研究科新入生

<会場案内図>



第2学舎4号館
4階 F403教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

E-Mail kaikei@ml.kandai.jp



竹中平蔵 客員教授講演会

慶應義塾大学名誉教授

「ポストコロナの日本経済」

元国務大臣で、総務大臣や郵政民営化担当大臣等を歴任された竹中平蔵客員教授のオンライン講演会を開催します。学生及び教職員の皆様のご視聴をお待ちしております。

■ 日 時：2022 年 **2 月 15 日** (火)
14 : 30 ~ 16 : 00

■ 実施方法：オンラインで開催します。
リンク先等の詳細については、
申込時にお知らせします。

■ 申 込：**2 月 8 日** (火) **17 時**までに
以下の QR コードからお申込ください。
(定員 150 名・先着順)



<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail : kaikei@ml.kandai.jp

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248